



クラブ便り

平成 30 年度 第 1 号

春シーズン開幕号 2018.4.25

京都大学ラグビーフットボールクラブ

◆監督団より挨拶◆

～溝口正人 監督 (H02・神戸)～

会員の皆様こんにちは。監督の溝口です。先ず昨年はグラウンド内外において多くのご支援、ご声援賜り誠にありがとうございました。みなさまのお力添えの下、なんとか目標にしていた B リーグ復帰を果たすことができました。今年は昨年試行錯誤しながらやってきた良い点を、京大ラグビー部の文化としてキチンと根付かせ、更に進化させること、そして 30 年間縁のなかった A リーグに手を届かす為には、一体何が必要なのか、何をしなければならないのかを現役のみんなと一緒に考え試していきたいと考えております。

さて新チームの方ですが、有澤主将、斎藤副将（共に仙台出身）の下、2 月よりオフ練を開始し、3 月 1 日より正式にシーズンインしました。3 月は昨年同様に 4 勤 1 休のペースでウエイト、体幹トレーニングを中心にフィジカルの強化、パスとハンドリングを中心とした基礎練習にあてました。今年 B リーグで戦っていく上で必ず必要になってくるのが、戦う身体造りです。その意識を現役のみんなにも高く持ってもらいたいという意味を込めて、シーズンイン当初の 3 月 1 日からの 4 日間は、ウエイトトレーニングのスポットコーチをお招きし、全部員に対して正しい姿勢、タイミング、ポイント等をこと細かにレクチャー頂き、年間を通してのウエイトトレーニング計画についてもご指導頂きました。最終日にグラウンドで教えて頂いたクロスフィットトレーニングは、藤井、北川両コーチも大変気に入っており、近いうちに京大ラグビー部版のクロスフィットトレーニングが見られるのではないかと私も楽しみにしております。

また、クラブをお願いしておりました古タイヤと懸垂用の鉄棒についても、早々にご準備いただき、ありがとうございました。昨年来うちの定番練習となっている魚雷に続き、この古タイヤを使った機雷や今後の日課にしていこうと考えている逆手懸垂は、現役のみんなをひと回りもふた回りも逞しくしてくれると思います。

4 月からは新歓が始まります。事前情報を得ていた受験生の合格率が例年に比べ低く、かなりの苦戦が予想されますが、20 名を目標に頑張ってみます。引き続きの情報収集、母校の後輩たちへの連絡やフォロー等をみなさまにお願いした際には、ご協力の程よろしくお願い致します。授業や新歓で忙しい毎日が予想されますが、3 月にやってきたことがリセットされぬように、個々人がキチンと自覚を持って計画的にこの一ヶ月を過ごして欲しいと思います。

5 月以降の春シーズンの予定ですが、5 月 3 日から 5 日に宇治でミニ合宿。6 日からは B チームで近国に出場することにしました。公式戦の中で B チームにも多くの経験を積んでもらいたいと考えています。5 月の中旬以降、慶應義塾大学を皮切りに、関西学院大学、6 月に入り防衛大学、立命館大学との定期戦を予定しておりますので、お時間許すようであれば、是非グラウンドで現役の勇姿をご覧ください。

最後になりましたが、今期現役が掲げてくれた目標は「B リーグ 3 位以上」です。これは、漠然としたイメージの中で、彼らなりに精一杯出した目標だと思います。この目標が漠然としたイメージではなく、実感として肌で感じる事が出来るように、日々高みを目指し精進していった欲しいと思います。私達監督団は、彼らが今期の目標延いてはその上の目標に辿り着けるように、最大限のサポートに努めていく所存です。本年も一年間よろしくお願い致します。

～藤井宏二 コーチ (H03・宇部)～

2017 年よりコーチを務めさせていただいております、平成 3 年卒 藤井です。京都大学ラグビーフットボールクラブの皆様におかれましては、日頃よりチームに対して多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。昨年は、現役の頑張り、活躍と、皆様の後押しもあり、無事 B リーグに昇格することができました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

昨年 1 年間コーチをやってみて感じたことは、まず一番に、学生が授業に参加する時間が非常に増えていることです。本来当たり前ではありますが、夕方遅くまで大学の講義を受けた後、18 時から練習が始まります。15 時に時計台に集合し、宇治まで連れて行ってもらって 16 時から 3～4 時間練習していた自分の経験と比較すると、様変わりしていることを痛感します。そういう彼らの環境を認識し、実際にグラウンドに行行って現役と会話することを通じて、以前よりはチームや学生の役に立つ提案や助言ができるようになったかな？と、自問する日々です。

また、やはり強く感じていることは京都大学ラグビーフットボールクラブの素晴らしさです。A リーグで学生時代を過ごされた諸先輩方、ラグビー界で大いに名を馳せたわけでもなく（失礼！）、学生の頃に B リーグや C リーグで苦労した近い世代の O B 仲間たちが、仕事や家庭の都合もある中で、それぞれにできる最大限の協力をしてくださることに深く深く感謝しています。

さて、19 年にはラグビーワールドカップの日本開催が控える中、強豪校は選手の環境づくりや人材の獲得、投入に余念がありません。ラグビーのプロ化、二極化

が進みつつあるように感じます。そうした中、京大のような文武両道のラグビー部が、その置かれた環境の中で最高のパフォーマンスを示すことが、ラグビーを楽しむ若い世代、若い世代の将来の選択肢を増やし、ラグビー界全体を盛り上げることに繋がると考えています。

とはいえ、まずは現役が充実した学生生活を送ることができるよう、皆さんにグラウンドで現役の素晴らしいラグビーを見ていただけるよう、今年も頑張る所存です。引き続きご支援よろしくお願いします。

◆新三役による今シーズンへの抱負◆

～有澤善大 主将(工学部・仙台第二)～



今年度主将を務めます有澤です。OBの皆様、平素より現役のご支援ご声援のほど、誠にありがとうございます。昨年のBC入替戦におきましては多くの方に応援に来ていただき、普段以上の力を発揮することができました。ありがとうございました。

私はCリーグに降格した一昨年のシーズン、そして昨年のシーズンを通して京都大学ラグビー部の歴史の重さを体感しました。一昨年まで長年Bリーグにいましたが、Bリーグに居続けることも決して楽なことではなく、歴代の先輩方の努力の結果であったのだと感じました。

今年2年ぶりにBリーグの舞台で戦うにあたってBリーグ3位以上という目標を立てました。昨年のシーズンは常々「BからAへ」と口にして過ごしてきました。昨年作り上げた土台の上に更に技術を積み上げてBリーグに挑戦します。先輩方が遺してくれたBリーグという舞台で、より貪欲に上を目指すという意味を込めて「HUNGRY」というスローガンを掲げました。このスローガンのもと1年間ラグビーに励みます。そして歴代の先輩方のように、後輩に京都大学ラグビー部としての誇りや伝統を繋ぎたいです。

私個人としましては、他の誰よりも身体を張ってプレーすることでチームを引っ張っていきたくと思っています。最後の一年間、悔いのないよう全力で打ち込み、そして仲間とできるラグビーを存分に楽しみます。一年間どうぞよろしくお願い致します。

～齋藤瑞輝 副将(農学部・仙台第一)～



今年度、副キャプテンを務めます、齋藤瑞輝と申します。一昨年にCリーグ降格という、チームにとって大きな転換期を迎えました。一年でBリーグ復帰を果たすというモチベーションを高く保つために今年卒部された先輩方は

多大な努力をされ、見事目標を達成し、我々後輩にもたくさんのものを残してくださいました。また、Bリーグ復帰をめざすにあたり、監督団やOBの皆様、父兄の皆様の暖かいご声援とご支援があったことは言うまでもありません。

今年はスローガンに「Hungry」を掲げております。Bリーグの厳しい戦いを勝ち抜き、Aリーグへの挑戦権を得るためには、これまでと同じ努力では到底成し得ることはできません。このスローガンは、大きな目標を達成するために、常に自分達に足りない部分を見だし、貪欲に自身の成長とチームの勝利を求める、という思いが込められています。

京大ラグビー部のアイデンティティでありバリューでもあります、「学生主体」の理念を大切に、キャプテンを中心に、アイディアを出しあって練習を工夫しております。さらに、Bリーグでは昨年よりもレベルの高いフィジカルバトルが予想されるため、4回生の古座岩をリーダとして、ウェイトトレーニングにも励んでおります。チームの目標である、「Bリーグ3位以上」を達成するために、チームとしても私個人としてもまだまだ成長しなければなりません。日々成長を実感できるようなトレーニングを重ねていきたいと思っています。昨年と変わらぬご支援とご声援のほど、よろしくお願い致します。

～岡村洸篤 主務(法学部・西大和学園)～



今年度、京都大学ラグビー部で主務を務めさせていただきます法学部4回の岡村洸篤です。主務という役職をいただき、責任の重大さに身が引き締まる思いです。1年間よろしくお願い致します。

去年、チームといたしましてはCリーグから1年でBリーグに復帰することができました。その去年からの良い流れをより大きくさせて、去年からチーム内で掲げていた「B昇格からAへ」を実現すべく、日々練習に励んでおります。このような上昇気流に乗りつつあるチームの運営を円滑にできるよう、主務として精一杯頑張っていきたいと思っています。

プレイヤーといたしましては、去年の春シーズンはA戦に出場できたものの、秋シーズンではAの試合に出場することができず、Bリーグ復帰にもあまり貢献することができませんでした。最終学年である今年度は、Aのレギュラーを勝ち取り、それをシーズン通して守れるよう、また引退した時に悔いが残らないようプレーしていきたいと思っています。具体的には、自分の課題であるタックルやロングキックの精度を上げ、オフenseでの決定力を高めていきたいです。また、4回生として後輩にプレー面だけでなく、日常生活の面でも模範となれるようにしていきたいと思っています。

最後になりますが、これからも変わらぬご声援のほど何卒よろしくお願い致します。

◆平成 29 年度卒業生の挨拶◆

～溝上永純（工・建築、津） 京都大学～

OB の皆様、4 年間ありがとうございました。主将を務めさせて頂いた最後の 1 年間で、本当に多くの人に支えられて自分達はラグビーが出来ているのだと気づけました。特に、私達の代は C リーグに降格した所からのスタートという事もあり、そのご支援は例年以上だったと感じております。アイスバスの為の製氷機の設置や、芝の管理、応援に駆けつけて下さる人等本当に様々な面でサポートして頂きました。これからは OB として、皆様と共に、現役の支援に尽力致します。

～小川拓朗（医・人健、西大和）

人間健康科学系専攻臨床バイオメカニクス研究室～

京都大学ラグビー部での 4 年間は入部する前に期待していた以上に楽しいものでした。選手としては怪我が多く、プレイヤーとしてチームに貢献することはあまりできませんでした。特に 4 回生の時はラグビーの事を考える事ばかりでラグビーは本当に面白いスポーツだと改めて感じました。最後に、このチームは OB の皆様や多くの方に支えられて活動することができていたことを実感しました。4 年間ありがとうございました。

～高木敦司（法、東海）中央大学法科大学院～

2017 年度、主務を務めました高木敦司です。初めに、昨年 B リーグ昇格のためにお力添えを頂いたこと、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。私はこの春から東京の大学院に進学しました。周りには知り合いもほとんどおらず、新生活は大変なものと思われま。しかし京都大学ラグビー部での練習でのしんどさを思い出しつつ、4 年間で学んだことを活かしながら精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

～西谷真知（理、公文国際）京都大学理学研究科～

OB の皆様 4 年間お世話になりました。僕が会計という役職を無事務め上げることができたのも皆様のご支援のおかげと感謝しております。プレイヤーとしては怪我に悩まされ続けた 4 年間でしたが、それでも KIURFC でラグビーをした時間は非常に楽しいもので、かけがえのない日々を送ることができた自信を持って言うことができます。暫くは京都に留まることですが、後輩たちが安心して部活動を行えるよう支援すると同時に練習相手等としても役に立ちたいと思います。

～須貝英輔（文・人文、新潟） 京都大学～

引退した今、これまでの大学生活を思い返してみると、思い浮かぶのはラグビー部で過ごした時間の事ばかりで、それだけ自分の中でラグビーの存在が大きかった事を実感しています。最後まで未熟な身ではありませんでしたが、それでも僕がこれまでやってこられたのは、本当に多くの方々の支えがあったからだと感じます。先輩、後輩や同期、監督団や OB の皆様には本当にお世話になりました。特にこの一年、四回生になり、多くの OB の方々の支援のお陰で部が運営されている事を改めて知りました。自分もこれからは OB として、出来るだけ多くの物を後輩に返していきたいと思っています。

～簀内敬太（工・電電、膳所）

京都大学大学院情報学研究科～

OB の皆様、四年間のご支援とご声援ありがとうございました。特に私は新勸係として多くの OB の方々に協力していただきました。そのおかげで頼もしい後輩たちと出会えたと思います。引退してからは自由な時間が増えた反面、物足りなさもあり、毎日ラグビーをしていたことが如何に充実していたかを実感しています。楽しいだけでなく辛いこともありましたが、最後まで続けて本当によかったと思います。今後は OB として現役を支援していきたいと思っています。

～林田太助（医・人健、奈良女子大附属）

あんしん病院～

まず初めに、現役中私たちの活動を支援してくださった OB の皆様、ご多忙の中練習に参加して下さった監督団の方々、共に戦って下さった先輩後輩の皆様に感謝申し上げます。私は、入部当初から多くの試合に出させて頂いたお陰で、本当に楽しくラグビーができました。時には、ケガでの長期離脱や、リーグ戦でシンビン頂くなどチームに迷惑をおかけしましたが、それも良い思い出です。本当にありがとうございました。

～石田充（法・明和）京都大学～

4 年間、多大なご支援ご声援をいただきありがとうございました。特に昨シーズンは製氷機やアイスバス、トランシーバーなどチーム強化のための高額の買い物が続いたこともあり、備品係として、また実際に物を扱うマネージャーとして OB のみなさまのご支援の大きさを痛感する一年でした。

私個人としては、至らない点も多くマネージャー活動に苦しんだ時期もありましたが、折に触れお声がけいただきなんとか最後まで走り抜けることができました。スタッフ全体でも B リーグ昇格に見合う働きのできるチームをつくることができ、みなさまのご期待に応えられたかとほっとしています。

～和田渚（京都女子）ANA ウイングス株式会社～

4 年間、ご声援とご支援、誠にありがとうございました。3 回生の頃から女子マネージャーが 1 人になり、DM の間違いも多く、ご指摘を頂くことも多かったです。しかし、たくさんご指導頂けたからこそ毎日学ぶことが多い 4 年間であり、自身の成長に繋がる経験をさせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

チームとしては、B リーグ昇格という目標を達成することができ、本当に選手の頑張りだけでなく、温かくグラウンドにて見守って下さったからだと感じています。これからは社会人の 1 人として、ラグビー部で学んだことを活かしていきます。様々な経験をさせてくださり、誠にありがとうございました。

◆年会費納入のお願い

※特に「振込」にて納入いただいているOBの皆様へ

春シーズンは新入部員勧誘や練習用具の購入、監督団交通費、東京遠征等、かなりの支出があり、7 月末の口座引き落としまでの間、多額の立替払いを監督団、現役等をお願いするとともに、強化に必要となる用具購入やコーチ招聘の機動的な支出対応に支障が生じる可能性が出ております。「振込」にて年会費を納入いただいている OB の皆様（＝自動口座引落の登録をされておられない方）におかれましては是非ともお早目の会費納入をいただきたくお願いいたします。

（１）年会費額

大学院生・5 回生以上学生：5, 000 円
卒業 4 年目までの社会人：10, 000 円
卒業 5 年目以降 59 歳まで：20, 000 円
60 歳から 64 歳まで：10, 000 円
65 歳以上：任意

（２）振込先口座

三井住友銀行 堂島支店（店番号 518）
普通預金 口座番号 261989
京都大学ラグビーフットボールクラブ会計峯本耕治

また、年会費納入に加え更なるご支援をいただける方は以下の「京大ラグビー部活動支援基金（京都大学基金内に設置）」へのご寄付につきましてもご検討の程お願い申し上げます。ウェブサイトから簡単に申し込みができ、クレジットカードでの支払いも可能です。

京大ラグビー部活動支援基金：

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/>

◆名簿登録情報変更連絡のお願い

◆春の練習試合と定期戦の日程◆

4 月 29 日（日）・・・練習試合 vs 神戸大学
14：00（京都大学宇治グラウンド）
5 月 6 日（日）・・・近畿地区奥立大学体育大会
11：00（和歌山大学グラウンド）
5 月 12 日（土）・・・慶応大学定期戦
14：00（慶應日吉グラウンド）
5 月 19 日（土）・・・関西学院大学定期戦
14：00（関西学院第 2 グラウンド）
6 月 2 日（土）・・・防衛大学校定期戦
11：00（京都大学宇治グラウンド）
6 月 16 日（土）・・・立命館大学定期戦
14：00（立命館 BKC グリーンフィールド）

◆連絡先等◆



~~~~ 3/18 追い出し試合 ~~~~



~~~~ 新歓イベント ~~~~



~~~~ 春シーズン トレーニング風景 ~~~~

### ◆ 編集部より ◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岡本大和 (H23) [kiurfc@r2d.info](mailto:kiurfc@r2d.info)



# クラブ便り

平成 30 年度 第 2 号

春シーズン総括号 2018.9.13

京都大学ラグビーフットボールクラブ

## ◆ 監督による春シーズン統括 ◆

～溝口正人監督 (H02・神戸)～

3月1日より始まった春シーズンは6月16日の立命館大学との定期戦をもって終了。暫しのオフの後、8月1日より夏の練習を再開し、猛暑の宇治で走り込み、8月19日から26日まで恒例の菅平合宿に行っていました。会員のみなさまには、心温まる差入れや寄附を多数頂戴し、数多くの方々にグラウンドまで足をお運び頂き、部員たちに熱い声援を賜わり誠にありがとうございました。

春から夏にかけてのトピックスとしては、シーズン当初に外部よりウエイトトレーニングのスポットコーチを招いたこと、現役部員達が自ら食事管理グループを作り体重等の管理を始めたこと、写真のとおり懸垂用のパイプを設置頂き、大型の古タイヤも多数ご用意頂きましたこと、立命館大学との定期戦で初の試みとなるライブ配信を行ったこと等でしょうか。そして、ここ数年転々とした菅平での宿泊先ですが、今年お世話になりましたエーデルホテルさんが、その施設（ハイブリッドの人工芝グラウンド3面、天然芝グラウンド1面、ウエイトルーム、アイスバス…）や食事面でも充実しており、現役部員にも大変好評でしたので、今後こちらを京都大学ラグビー部の定宿にしたいと考えます。

さて、ここまでの成果ですが、①春シーズン②リクルート③夏合宿の三つに分けて報告したいと思います。

①春シーズンの目標として掲げたのが、防衛大学校との定期戦に勝利すること、強豪校（慶應義塾、関西学院、立命館大学）との定期戦にひとつでも勝利することでした。結果、防衛大学校には勝ちましたが、強豪校には勝つことが出来ませんでした。その中で、立命館大学との最終戦では、後半残り10分のところでワントライ差まで追い詰める程の粘りを見せてくれました。このゲームは現役部員にも大いに自信になったと思います。

また6月には、9月16日のリーグ戦初戦で対戦する追手門大学と練習試合を行いました。今期の目標である「Bリーグ3位以上」を達成する為には勝たなければいけない相手ですが、残念ながら70点以上取られ惨敗してしまいました。現役部員そして我々監督団は、リーグ戦までの3ヶ月でこの差をひっくり返す気でおりますので、リーグ戦初戦にご期待ください。

②リクルートですが、最終11人（プレイヤー9人、マネージャー2人）のやる気のある有望な新入生を得ることが出来ました。しかしながら、今年度の4

回生16人が抜けてしまう来年以降の戦力を考えますと、まだまだ人数が足りません。現役部員には、経験未経験は問わず体の大きな人や運動神経のよい人、また他のクラブを辞めた人等を引き続き勧誘するように指示しておりますが、OBの皆様も母校の情報提供等ご協力よろしくお願い致します。

③夏合宿では、Aチームは秋のリーグ戦での様々な戦いを想定して、自分達の不得意な戦い方にもチャレンジしてみました。結果、前半はなかなか上手くいかない部分もありましたが、後半の青山学院、成城大学戦では、それなりの手応えを感じることができました。

Bチームもこの合宿でのゲームを通じ、漠然とゲームをやるのではなく、しっかりと考えてゲームをする兆しが出てきました。また、アタック、ディフェンス両面においても『前に出ること』の大切さを理解してくれたように思います。これから始まるリーグ戦は長丁場の総力戦。控えの選手達の更なる成長に期待したいと思います。

最後に、今後の予定ですが、9月2日に宇治で同志社大学との定期戦、9月16日よりリーグ戦が始まります。やや怪我人が多く厳しいスタートになりますが、チーム一丸となって一試合一試合戦っていききたいと思いますので、お時間許すようでしたら、是非グラウンドまで足をお運び頂きご声援の程よろしくお願い致します。



懸垂用のパイプ



トレーニング用の古タイヤ

## ◆ 主将による春シーズン統括 ◆

### ～有澤善大主将（仙台二）～

OBの皆様、日頃よりお世話になっております。今年度主将の有澤です。いよいよリーグ戦を目前に控えたので3月から現在までの歩みをご報告させていただきます。

まず私たちはBリーグ3位以上という目標を立てて始動しました。そのために春シーズンの最終戦であった立命館大学との定期戦に勝利することを第一の目標としました。3月はボールを受けるスピード、コースの精度を高める基本的な練習に打ち込み、新歓を行いつつ練習していた4月には大阪大学、神戸大学と練習試合を行い両試合とも無事勝利を収めることができました。

スタッフ含め11人の新入部員を迎え、5月からは定期戦で格上との試合が続きました。定期戦初戦の慶應大学は先制点を取り前半7-14で折り返しましたが、後半突き放されてしまい大敗を喫しました。翌週の関西学院大学との定期戦も怪我人が多く出てしまい芳しくない結果となりました。この2試合から自分たちにはまだまだBリーグ上位と戦える力はないと痛感させられました。

そのような定期戦の結果からエリア中盤でのオプションの少なさを感じ、今まで取り組んでこなかったハイパントを戦略として取り入れるようにしました。6月の防衛大学との定期戦ではハイパントが機能したことや、期待の1年生WTB水野の活躍もあり逆転勝利することができました。防衛大学は3年間負けていた相手だっただけに自信につながりました。そして迎えた春シーズン最終戦の立命館大学戦。前半2トライ差を許し後半も先制トライを取られてしまいましたが、前で止めるDFが機能しボールを奪取、連続攻撃やラインアウトモールなどで得点を重ね5点差まで詰め寄ることができました。しかし逆転とまではいかず点差を広げられてしまい敗北しました。

春シーズンを終えてキックを使ってエリアを取り、あとはDFをできるだけ頑張るという今までの戦い方に限界を感じ、夏からはFWとBKが連動したアタックをできるような練習を始めました。合宿の試合では今までならキックをしていたエリアでもボールキープすることを試し、ポゼッションを高く保つことで試合を有利に運ぶ戦術に挑戦しました。普段とは異なる戦い方だけに東北大、大阪市立大、青山学院大との試合では勝利することはできませんでしたが、試合を経るごとに成果が現れるようになりました。そしてAの最終戦の成城大学との定期戦では、昨年苦しめられた相手に対し68-0と大勝を収めることができ、合宿で粘り強く新しいことに挑戦を続けた結果をいい形で得ることができました。

京都に帰ってきて行った同志社大学との定期戦の結果は敗北に終わったもののリーグ戦を想定するいい機会となりました。

チームは現在、最初の目標を保ったままリーグ戦初戦の追手門学院との試合の準備を進めています。まずは初戦の追手門学院に勝利し、勢いに乗ってBリーグを勝ち上がりたいと思います。2年前の入替戦のリベンジを果たすべく部員一同全力で頑張っておりますので、変わらぬご支援ご声援のほどどうぞよろしくお願い致します。

## ◆ 新人紹介 ひと言コメント ◆

### ・加藤 聡 明善 CTB 工学部地球

高校では主にFBやCTBをしていました。もともと身体が細いというのがあるのですが、1年間の浪人生活でかなり体重が落ち、ただの細い人になってしまいました。それでもコンタクトプレーが多くて難しいCTBをやりたいのは、奥深さと魅力を感じているからです。大学では特にフィジカルが大事になると思うので、低学年のうちにしっかり体づくりをしていきたいです。

### ・高嶋 智哉 天王寺 PR 工学部電気電子

高校まではラグビーに関わったことがほぼ全くなく、それどころか、運動すら全然やっていませんでした。ですが、新歓でラグビーの楽しさの一端に触れ、興味がわいたので、大学からではありますがラグビーに挑戦しています。今はPRに挑戦していますが、H0にも興味があるのでいつか挑戦してみたいです。初心者ではありますが、遠慮などはせず、練習に貪欲になり、いつかレギュラーになれるように頑張ります！

### ・高原 彰吾 大阪桐蔭 SH 理学部

自分は今、チームで競争率の高いスクラムハーフをやっています。スクラムハーフは単純な技術力だけでなく、たくさんの知識や経験から生まれる判断力などラグビーに対する理解力がかかなり重要なポジションだと認識しています。自分は先輩達に比べて、そのあたりで劣る点ばかりですが、先輩達の優れた能力をたくさん盗んで着実に力をつけていこうと思っています！

### ・松本 和樹 浦和 FB 法学部

僕は大学でも高校と同じくFBをしています。走力にはあまり自信がないので、状況判断やキックなどの力をつけて、試合に出られるように頑張ります。また、僕はまだまだ体が細いので、今の時期にしっかりと体作りをしていき、チームが困ったときに頼りになるプレーヤーになれるように頑張ります！

・水野 武 西大和学園 CTB WTB FB 法学部

はじめまして。一回生の水野と申します。僕はここ数年でラグビーをしていて特に磨きたいと思っているプレーはタックルです。僕はラグビーにおいて1番重要でカッコよくて輝いているプレーはタックルだと思っています。テレビでラグビーを見ていても、プレーの中で観客をどよめかせるタックルを決める選手には本当に心を奪われています。大学ラグビーでもタックルで輝けるように頑張っていきます！

・西田 樹 北野 FL 法学部

中高と陸上部で投擲をやっていましたが、京大でラグビーと運命的な出会いをしました。右も左も分からない状況でしたが、とりあえずカッコいいと思ったFWで比較的やりやすい（と教えてもらった）フランカーをポジションとしています。合宿でたくさん試合に出させていただいて肌でラグビーを感じることができ、より一層強くなりたいと思いました。大きな怪我なく、楽しく、京大ラグビー部に貢献できるよう精進していきたいと思っています。

・森本 智仁 愛光 L0 工学部物理

新入生の森本智仁です！ラグビー自体は小学校2年のときからずっと続けており、ポジションはバックスも少しやっていましたが主にフォワードをやってきました。高校ではNo.8でしたが、大学ではL0にも挑戦しようと思っています。大学でもラグビーをやるからには体重を増やし、接点で押し勝てるような選手になり、チームを引っ張れる存在になれるよう頑張ります！よろしくお願いします！

・酒井 寛太郎 東大寺学園 WTB, CTB 工学部地球

僕は素人に毛が生えた程度の経験値で、これまではWTBの経験しかありませんでした。しかし、京大では自分の武器である身体能力を伸ばして行くことはもちろん、可能な限り経験を積み、できるプレーやポジションの幅を広げつつ、自分のプレイスタイルを確立することを目標に考えています。積極的に先輩方や同級生から学び、力をつけて、レギュラーの座を狙っていききたいです。

・平手 佑季 一宮 S0 工学部地球

現在肩の怪我でコンタクトの練習に参加出来ない状況で、同期との差がひらいているのを感じて焦っています。ただこういった状況でもできること、例えば足の筋トレをしっかりと、復帰した時にすぐに戦力になれるよう頑張っていきます。ポジションについては、高校でやっていたS0を続けていきたいと思っています。キックスキルも状況判断力もまだまだ未熟ですが、1番ラグビーの楽しさを感じるのがS0をやっている時だからです。少しずつラグビーの理解を深め、レギュラーになれるよう頑張ります！

・北沢 奈穂 玉川 MG 同志社女子大

中学の頃にお姉ちゃんの影響でラグビーを好きになり、花園などにも足を運んでいくうちにラグビー部のマネージャーになりたいと思い、やっと念願のマネージャーになることができたのでこれから4年間頑張ります！よろしくお願いします！

・細川 菜摘 大阪桐蔭 MG 同志社女子大

はじめまして。1回生マネージャーの細川菜摘です。高校がラグビー強豪校で、初めて花園でラグビーを見たときにラグビーのおもしろさに惹かれてラグビーが好きになりました。また現在、大学で食物学を学んでいます。選手のサポートをしっかりできるマネージャーになりたいです。よろしくお願いします。

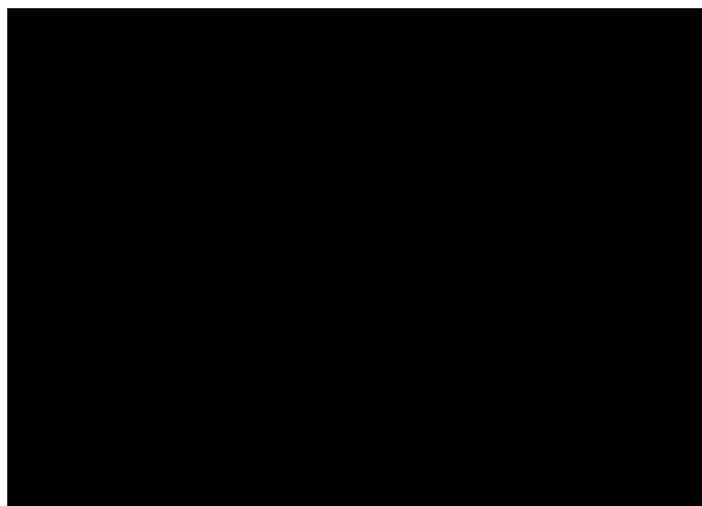
## ◆ 代表幹事より ◆

### ～稲葉 代表幹事（H2・麻布）～

代表幹事の稲葉（H2）です。5月の慶應戦、6月の防衛戦、立命戦、合宿時のOB戦を観戦しましたが、有澤主将のリーダーシップのもと、前に出るディフェンス、セット・プレーの安定、接点であたり負けないフィジカルを身に着けつつあり、秋のリーグ戦に向け、期待が持てる、素晴らしいチームになっております。是非とも、リーグ戦や九大・東大との定期戦に足をお運びいただき、応援をいただけますようお願い申し上げます。以下、代表幹事からのお願いです。

#### 1. 名簿データの確認

今年は4年に一度の名簿発刊の年となります。各会員宛に各人の現在の名簿情報登録内容確認依頼をメールまたは郵便で行っておりますところ、ご協力の程お願いいたします。転居、転職等で名簿データ（郵便番号/住所、勤務先、メールアドレス等）に変更がある方は以下のいずれかの方法で変更手続きをお願いします。



## 2. 年会費納入のお願い

既に納入いただいている会員の皆様、ありがとうございました。未納の方は以下の口座に振り込み願います。

三井住友銀行 堂島支店 普通 261989  
京都大学ラグビーフットボールクラブ 会計  
峯本耕治

また、年会費納入に加え更なるご支援をいただける方は、以下の「京大ラグビー部活動支援基金（京都大学基金内に設置）」へのご寄付につきましてもご検討いただきたくお願い申し上げます。ウェブサイトから簡単に申し込みができます（以下サイトを開き、「寄付する」ボタンをクリックし、必要事項を入力して支払い方法を選択するだけです）。銀行振込に加え、クレジットカードでの支払いも可能です。また税制上の優遇措置（所得税、地方税、相続税の控除）の対象となっています。

京大ラグビー部活動支援基金：

[www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/](http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/)

## ◆ 強化委員会リクルート部会より ◆

～村上睦明 （H2・六甲）～

OB 諸兄におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、リクルート部会からのお願いを書かせて頂きます。

今年も秋シーズンまで残り少なくなりました。現役チームは夏合宿を超え、復帰したBリーグで闘う準備を整えています。特に4回生が16名おり、チームの牽引力のある年と考えています。しかし裏を返しますと、来年度以降は部員数が激減し、チームの層の厚さが危機的に陥るとも限らない状況です。従いまして、今年の新歓・リクルートは例年にも増してかなり重要度が高くなっています。

また、皆様のご尽力もあり、現役チームは全体として、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、九州の各地から学生が集まっております。特に東海地区の選手が多く入ってくれており大変有難いです。引き続きのご協力をお願いする次第です。

リクルート部会では現役新歓チームと協力して、全国の高校へ案内パンフレットの郵送、遠征時の高校訪問、ラグビーフェスティバル、招待試合、花園大会での勧誘等、機会を捉えて高校ラグビーの関係者に継続してアプローチして参ります。何事もそうなのですが、「最低限、これはやらねば」というものはありましても「これとこれさえやっておけば大丈夫」というものはございません。是非、小さなことでも、まずは身近なところからご協力して頂けると私たちとしてもたいへん有難く嬉しいことです。

現役チームは監督団の指導の下、自分たちで試合の分析を行ったり、戦術の理解を深めたり、マネージャーやトレーナーも一丸となってチーム強化に取り組んでおり、Bリーグで勝っていける力をつけるために頑張っています。京大は入試が容易ではなく、その点でもハンディがあります。そこをカバーしていく為にも、皆様からの情報がたいへん重要です。チームが強くなって、魅力をアピールできるようになると、新人勧誘が成功することとはチームにとって、車の両輪のような関係にあります。是非、これからまだまだ上を目指していく為にも新入生の力が大いに必要であり、地道な勧誘・リクルートにご協力頂けるよう、お願いする次第です。

つきましては、この時期に行われています花園予選に足を運んで頂き、母校への応援と共に京大受験の情報等を収集、ご教示頂きたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

## ◆ 春シーズン試合結果 ◆

4月1日 練習試合

○京大 22-17 大阪大学

4月22日 新入生歓迎試合

○京大 34-10 京都工芸繊維大学

4月29日 練習試合

○京大 43-5 神戸大学

5月12日 定期戦

●京大 7-63 慶応義塾大学

MOM 齋藤 瑞輝（4回 仙台第一）

5月19日 定期戦

●京大 7-69 関西学院大学

MOM 鹿取 温希（2回 山口）

5月20日 練習試合

○京大 39-37 東宇治ラグビークラブ

6月2日 定期戦

○京大 36-21 防衛大学校

MOM 水野 武（1回 西大和学園）

6月10日 練習試合

●京大 0-73 追手門学院大学

6月16日 定期戦

●京大 24-43 立命館大学

MOM 水野 武（1回 西大和学園）

シーズン MVP：石田貴一

敢闘賞：田中祐輝

特別賞：仁木大輝、服部翔悟、齋藤瑞輝

特別ルーキー：水野武

※MOM：マン・オブ・ザ・マッチ

強化委員会が選出する試合で最も活躍した選手

## ◆ 夏合宿試合結果 ◆

宿泊ホテル：菅平高原エーデルホテル

〒386-2204 長野県上田市菅平高原菅平 1223-1548

8月20日 ●京大 12-33 東北大学  
8月21日 ●京大B 26-33 大阪市立大学  
8月22日 ●京大B 31-33 東京理科大学  
8月23日 ●京大 33-56 青山学院大学  
8月23日 ●京大B 31-36 上智大学  
8月24日 ○京大 68-0 成城大学(定期戦)  
MOM 安部 武 (3回 大分舞鶴)  
8月25日 ○京大B 54-10 京大OB  
MOM 森本 智仁 (1回 愛光)

夏合宿 MVP：西田 樹

## ◆ 秋のリーグ戦と定期戦の日程 ◆

9月 2日 (日) 定期戦  
vs 同志社大学 14:00 K.O. @京都大学 G  
9月16日 (日) 第一節  
vs 追手門学院大学 11:00 K.O. @追手門学院大学 G  
9月23日 (日) 第二節  
vs 花園大学 13:50 K.O. @京都大学 G  
9月30日 (日) 第三節  
vs 大阪産業大学 12:00 K.O. @京都大学 G  
10月14日 (日) 第四節  
vs 摂南大学 12:00 K.O. @摂南大学 G  
10月21日 (日) 第五節  
vs 龍谷大学 13:50 K.O. @京都大学 G  
10月28日 (日) 第六節  
vs 大阪教育大学 12:00 K.O. @京都大学 G  
11月11日 (日) 第七節  
vs 大阪経済大学 11:00 K.O. @大阪経済大学 G  
11月18日 (日) 第八節  
vs 大阪学院大学 12:50 K.O. @大阪経済大学 G  
11月25日 (日) 第九節  
vs 神戸大学 13:50 K.O. @大阪経済大学 G  
12月16日 (日) 定期戦  
vs 九州大学 時間未定 @九州大学  
12月23日 (日) 定期戦  
vs 東京大学 時間未定 @京都大学 G

## ◆ 連絡先等 ◆



## ◆ フォトギャラリー ◆

【6月2日 VS 防衛大学校】



【6月16日 VS 立命館大学】



【京都大学と立命館大学の定期戦ライブ配信】



※先方からの提案により今回初めて導入

※両チーム OB による解説付き（解説担当: H2 稲葉）

※現在も下記 URL から視聴可能

<https://youtu.be/4bwXzRGpaz4>

◆ 編集部より ◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになるとと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務委員長 岡本大和（H23）

総務委員 塩尻大也（H28）



# クラブ便り

平成 30 年度 第 3 号

リーグ戦総括号 2018.12.17

京都大学ラグビーフットボールクラブ

## ◆監督によるリーグ戦統括◆

～溝口正人監督（H02・神戸）～



会員のみなさん、こんにちは。監督の溝口です。急遽、総務委員会さんからリーグ戦を終えてのコメントを書くようにとのご依頼賜りましたので、全体総括はシーズン終了後にしまして、リーグ戦にフォーカスして少し書かせていただきます。

まず成績の方ですが、7勝2敗で3位となり今期の目標を達成することができました。本当にみなさんのご支援、ご声援のおかげだと感じております。ありがとうございました。そして、この目標を達成した有澤組のみんなのことを誇りに思いますし、一人一人を褒めてあげたい気持ちでいっぱいです。本当によく頑張りました。

去年はCからBリーグへ昇格しなければならないという使命感のようなものに絶えず追いかけてられているような1年でしたので、入替戦に勝利した後はホッとしたという気持ちしかありませんでしたが、今年はいろいろな事が思い返されます。その中で、強く印象に残っているものをいくつかピックアップしてみました。

### ① 目標設定

春シーズンに入る前の1月、主将に成りたての有澤主将から「今年の目標をBリーグ3位にしたいと思います。いかがでしょうか?」と相談されました。過去の成績、昨年Cリーグから昇格したばかりだということを鑑みれば、えらくバーを上げたなあと思いましたが、同時にOBさん達のAリーグ復帰への強い想いを考えると、3位じゃ中途半端だと言われそうで、おもわず「3位以上にしないか?」と返答していました。察しのいい有澤主将は、私の考えをすぐに理解をしてくれ、今期の目標が決まりました。

### ② 初戦、追手門大学戦

リーグ戦最大のポイントは、初戦の追手門大学戦だと思っています。追手門大学は昨年Bリーグ5位でしたが、これは諸事情で最後の2戦を棄権しての成績。実質は3位の実力のチームだったと思います。そう、この追手門大学戦こそが今期目標の3位以上を目指すかどうかの試金石になるだろうと予想していました。そして、逆転でこのゲームに勝利できた事によって、このチームは3位以上を目指すに足るレベルに

いること、これまでやってきた事が間違いではなかったことが、私自身もそうですが現役の部員達も実感できたのではないのでしょうか。

実は、この追手門大学戦には裏話があります。6月に追手門大学との練習試合を偶然組んでいたのですが、0-73で大敗しました。このゲームに関しては勝敗云々というよりも、相手を知る事とそのチカラの差を測る事を目的に臨みましたが、まあ気持ちいいぐらいボロボロにやられてくれました。しかしながら、結果的にはこの敗戦がよかったと思っています。

春シーズンも終盤に差し掛かり、やや中だるみしていたチームに喝を入れることができましたし、「3ヶ月でこの差をひっくり返すぞ!」を合言葉に暑い夏の厳しい練習やゲームを乗り切ることができました。そして何より、目標とするレベルを肌で感じられたことが一番の収穫だったと思います。

初戦勝利の勢に乗って、昨年3位の花園大学、4位の大阪産業大学に連勝し第1クールを全勝で終了。第2戦の花園大学戦は、後半33分に逆転されてから41分ノーサイド寸前の再逆転までの間、逆転するんじゃないかという雰囲気やチームが醸し出していましたし、第3戦の大阪産業大学戦に関しては、ゲーム前から負ける気がしませんでした。ひとつのゲームの勝利が、これ程までにチームを逞しくしてくれるんだということを学んだ気がします。

### ③ Bリーグ2強

続く第2クールは、昨年1位(Aリーグから降格)の摂南大学、2位の龍谷大学という過去3年間Bリーグの2強(1位チームは入れ替わっています)に君臨するチームとの対戦。目標である『3位以上』の以上の部分が一気に現実味をおびましたが、結果は連敗。正直、摂南大学には全く歯が立ちませんでしたし、龍谷大学戦は前半開始早々にスタメンFW3人が同時に負傷するというアクシデントもありましたが、惨敗でした。今のBリーグには、3位とこの入替戦に出場できる2位との間にもう一段高いバーがあるように思います。ただ、飛べない高さではないという印象を現役の部員達は持ったようです。是非とも、その感覚を忘れないうちにこのバーを飛び越えてくれることを期待したいと思います。

### ④ 入替戦観戦

12月9日は練習を休みにして、チームでAリーグとBリーグの入替戦を観戦に行きました。結果は、A10位の関西大学-B1位の摂南大学戦は29-31で摂南大

学の勝利、A9 位の大阪体育大学-B2 位の龍谷大学戦は 39-10 で大阪体育大学の勝利となりました。

この観戦は監督団から指示したものではなく、現役の部員達から希望して行ったものです。A と B の入替戦を意識し出した彼らは、実際にこのゲームを見て何を思い、何を感じてくれたのでしょうか？これからゆっくり話を聞いていきたいと思います。

## ◆主将によるリーグ戦統括◆

～有澤善大主将（仙台二）～



OB の皆様、お世話になっております。今年度主将の有澤です。初めに今シーズンのリーグ戦の成績を報告させていただきますと、7 勝 2 敗で 3 位と今年立てた B リーグ 3 位以上という目標を達成することができました。日頃よりご支援ご声援をいただいている皆様に改めて感謝の気持ちを申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今回のクラブ便りでは合計 9 試合という長いリーグ戦の歩み、そして今私が思っていることなどを述べさせていただきます。

今回のクラブ便りでは合計 9 試合という長いリーグ戦の歩み、そして今私が思っていることなどを述べさせていただきます。

まず、ターニングポイントとなったのは開幕からの 2 連戦でした。初戦は一昨年入替戦で敗北し春の練習試合でも惨敗した追手門学院大学、2 戦目は昨年 3 位の留学生を擁する花園大学と、上位に食い込むであろう 2 校に勝利できたことでチームに勢いがつきました。摂南大学、龍谷大学には大きくスコアを空けられ連勝は止まったものの、続く大阪教育大学との接戦をものにし、その後もすべて勝利して 3 位という結果でリーグ戦を終えることができました。

好調を維持し目標を達成できた要因は様々ありますが、私の思う大きな要素をお伝えしたいと思います。

まずはセットプレー、特にスクラムに強みを持てたということです。試合に観に来てくださった方はご覧になったと思いますが、摂南大学・龍谷大学以外に対してはスクラムは完全に支配しました。このスクラムでの優位が今年の成績の原動力となりました。

チームに粘り強さが生まれ、接戦をものにできるようになったことも大きな要素にといえると思います。具体的には終盤も走りきるフィットネスを身につけたことです。おかげで私たちは最後まで集中力を切らすことなくプレーできました。

他にも怪我人がほぼ出なかったこと、DF の完成度が高かったこと、相手をよく分析して試合に臨んだことなど様々あります。ただ一番の要素はメンバーの上回生の多さにあり、その結果上記のような強みが生まれたのではないかと私個人的には思っています。

開幕戦は 14 人、最終戦も 14 人。これはスタートで出場していた 3.4 回生の人数です。また 4 回生は 9 戦平均するとおそらく毎試合 9.5 人程出ていました。こ

れくらいの人数比が私たちのような推薦制度もない国立大学の目指すべき姿ではないでしょうか。決して下級生の可能性、力を否定しているわけではないです。毎年 1.2 回生から活躍するプレイヤーは京大にもいますし、今年も 1 回生の水野がチームを救ってくれた場面がいくつもありました。そういった下級生の力を引き出すためにも上回生がチームの土台としての役割を果たすべきで、今年はそれができたのではないかとと思っています。DF の基本の動き、ブレイクダウンの基本、パススキルから正しいランコース、そしてフィジカルからラグビー理解度等。一人一人がこれらができるようになることがチームの土台ができたということだと思います。だとすると今年のメンバー構成、そして成績から考えると、京大には少なくともここ 4 年の間にチームの土台を為すための基礎スキルをつけるノウハウができつつあるということになります。

私が 1.2 回生の頃、当時監督だった只井前監督が「京大は毎年 15 人入部すれば強くなる。」と仰っていましたが、まさにその通りだと思います。しかし私も 3 年新人勧誘を経験しましたが、15 人入れることは簡単なことではないです。現役もできる最大限のことはしていますが、どうしても現役には手の届かないことは出てきます。OB の皆様にリクルートを手伝って頂いていることは重々承知しておりますが、受験者情報や合格者情報など引き続きリクルート面からも支援をしてくださるようこの場を借りてお願いさせていただきます。よろしくお願い致します。私はもっと部員が増え KIURFC という組織が大きくなり、そして京大が A リーグで戦う日を今から夢見ています。

本原稿を書いている現在、残すところは九大と東大との定期戦を残すのみとなりました。来年以降も戦い続ける後輩に 1 つでも多くのことを残すために、またこの 1 年間ラグビー部に関わってくださったすべての方への感謝の気持ちを込めて、必ず勝利できるよう最大限の準備をして試合に臨みます。少し早い挨拶にはなりますが、1 年間ありがとうございました。

## ◆後輩から見た有澤組①◆

～桑田 智史（3 回・大手前）～



本年度スタンドオフとして試合に出させていただいた 3 回生の桑田です。リーグ戦を通して大きな怪我なく試合に出場でき、目標である 3 位を達成することができたことを嬉しく思います。

僕が全 9 試合の中で特に印象に残っている試合は初戦の追手門学院大戦です。2 年前の入れ替え戦で負けていたこともあり絶対に勝ちたい相手でした。春には大敗を喫していましたが、8 月の二部練や合宿等のきつい練習を乗り越え、先輩方が偵察のビデオを分析して対策を練ってきたので自信を持って試合に挑みまし

た。そんな中でも前半は自陣で戦う時間が多く、厳しい時間が続きました。それでも粘りのディフェンスで被トライを2本で抑え、後半にスクラムを圧倒したことで流れを引き寄せることができ、結果逆転して勝つことができました。この勝利によってチームに自信と勢いがつき、その後の試合での勝利に繋がったと感じています。

今年のリーグ戦では7勝2敗と過去30年間で最もいい成績を残すことができましたが、僅差で勝つ試合が多く、決して楽な戦いはありませんでした。毎試合ごとに先輩方が相手チームのビデオを見て分析し、ミーティングでそれを共有して練習、試合に活かしていく、その積み重ねによって1勝1勝していったと感じています。しかし個人としてはあまりいいパフォーマンスができたとはいえず、ミスキックは毎試合のようにあり、またアタックのリズムがうまく作れていない等、課題は多くでした。実際スクラムが絡むトライが全トライの半数程を占めており、継続してトライを取り切ることがあまりできず10番としての役割を十分に果たすことはできなかったと感じたシーズンでした。これからこのような個人の課題を改善していくと共に、来年は自分が最上回生となりチームを引っ張っていく立場になるので、チーム全体のことに目をやりより良いチーム作りに励みたいと思います。

最後に、3年間お世話になった4回生と試合ができるのも残すところ定期戦の2試合となりました。去年はこの定期戦を2敗で終えてしまいましたが、今年は最後まで気を抜かず戦い抜き、勝利してシーズンを終わられるよう全力でプレーしたいと思います。

## ◆後輩から見た有澤組②◆

～山田 康策（2回・明和）～



2回生でPRの山田康策です。2回生から見た今シーズンということで本稿執筆の機会をいただき、恐縮ではございますが、この一年を通して自分が感じたことを綴らせていただきます。

3月に新チームが本格的に発足し、今シーズンの目標を「Bリーグ3位以上」とすることが有澤主将から発表されました。昨年Cリーグから昇格したため2回生の自分にとっては初めてのBリーグでの戦いとなることもあり、その目標がどれだけ大変なことなのか、また、現状チームがどのレベルにいるのかというところを推し量ることができなかったというのが正直なところでした。春シーズン、夏合宿を経てもそれは変わらない中でリーグ戦が始まっていきました。迎えたリーグ戦初戦、相手は昨シーズンのBリーグ上位校の追手門学院大学で、前半をリードされて折り返したものの、京大が後半に逆転して勝利を収めました。この時初めて自分の中でBリーグ3位という目標が十分狙える位

置にあるものなのだという実感が湧きました。この追手門学院戦をはじめ、リーグ戦では何度も後半での逆転勝ちを収めてきました。この後半での粘りは今年の京大ラグビーの強みだと思います。それは日頃から、北川コーチら監督団の指導の下、有澤主将をはじめとする4回生が引っ張ってくれてフィットネス強化に取り組み続けてきた成果だと思います。

Bリーグ3位という結果で目標を達成し、チームとしては充実したシーズンとなりましたが、個人的には納得できるシーズンは送れませんでした。昨シーズンから試合に出場させていただいていたこともあり、今シーズンは更に出場時間を増やしていくことを目標に臨みましたが、夏合宿で怪我をしてしまったことでシーズン開幕に間に合わず、中盤に復帰した後もなかなかうまくいかず、プレーでチームに貢献することができませんでした。幸いにもまだ定期戦が残っているので、勝ちにつながるプレーをして少しでも納得のいく形でシーズンを締めくくりたいと思います。

## ◆リーグ戦試合結果◆

- 9月16日（日） 第一節（於追手門学院大学）  
○京大33-26 追手門学院大学
- 9月23日（日） 第二節（於宇治 G）  
○京大22-19 花園大学
- 10月6日（日） 第三節（於西京極補助グラウンド）  
○京大22-7 大阪産業大学
- 10月14日（日） 第四節（於宇治 G）  
●京大10-108 摂南大学
- 10月22日（日） 第五節（於宇治 G）  
●京大14-87 龍谷大学
- 10月29日（日） 第六節（於宇治 G）  
○京大23-20 大阪教育大学
- 11月12日（日） 第七節（於大阪経済大学 G）  
○京大33-17 大阪経済大学
- 11月19日（日） 第八節（於大阪経済大学 G）  
○京大55-24 大阪学院大学
- 11月26日（日） 第九節（於大阪経済大学 G）  
○京大59-17 神戸大学

## ◆定期戦試合結果◆

- 9月2日（日）（於宇治 G）  
●京大10-48 同志社大学
- 12月16日（日）（於コカ・コーラさわやか G）  
○京大A31-10 九州大学A  
●京大B24-48 九州大学B

## ◆練習試合結果◆

- 11月4日（日）（於大阪国際大学 G）  
●京大B14-22 大阪国際大学

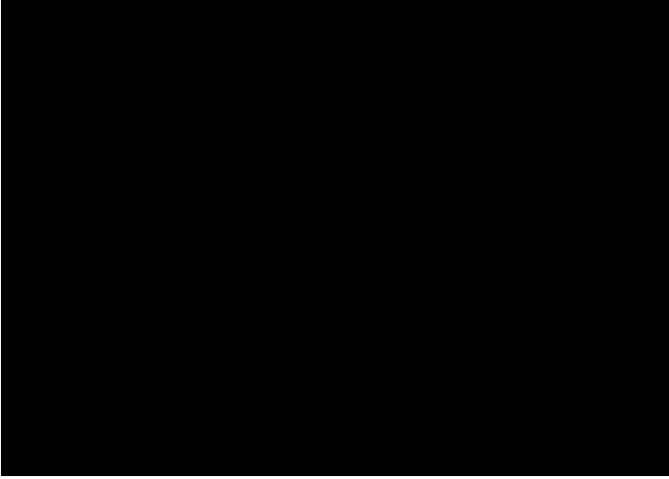
## ◆今後の試合予定◆

12月23日（日） 定期戦

vs 東京大学A 12:00 KO @JR 西日本神戸総合G

vs 東京大学B 13:50 KO @JR 西日本神戸総合G

## ◆連絡先等◆



## ◆編集部より◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務委員長 岡本大和 (H23)

総務委員 塩尻大也 (H28)

総務委員 石田充 (H30)

## ◆年会費納入のお願い◆

クラブ会費を納入いただきありがとうございます。今年度会費を未納入の方は以下の口座に振り込みをお願いいたします。

三井住友銀行 堂島支店 普通 261989

京都大学ラグビーフットボールクラブ 会計  
峯本耕治

今年度は本名簿発刊費用、夏の酷暑等による芝生維持等のためクラブ会計が切迫しており、会員の皆様の会費納入を節にお願いする次第です。宜しくご協力の程お願い申し上げます。

また、会費納入に加え更なるご支援をいただける方は、以下の「京大ラグビー部活動支援基金（京都大学基金内に設置）」へのご寄付につきましてもご協力いただきたくお願い申し上げます。ウェブサイトから簡単に申し込みができ（以下サイトを開き、「寄付する」ボタンをクリックし、必要事項を入力して支払い方法を選択するだけです）、銀行振込に加え、クレジットカードでの支払いも可能です。また税制上の優遇措置（所得税、地方税、相続税の控除）の対象となっています。

京大ラグビー部活動支援基金：

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/>

## ◆フォトギャラリー◆

### 【試合写真】



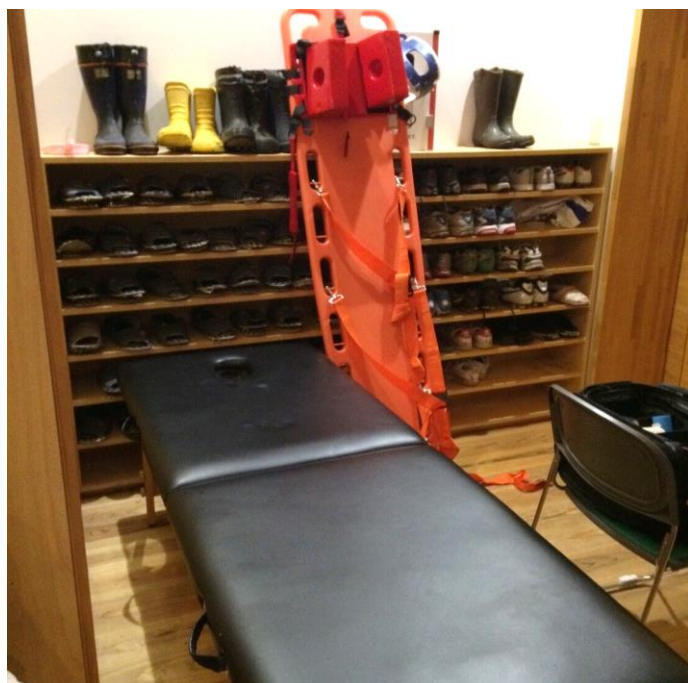
### 【練習の様子】



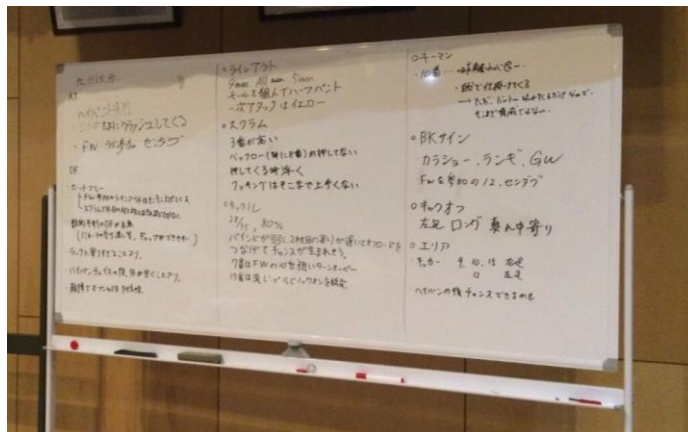
【練習後、OB 差し入れのカレー】



【マネージャー・トレーナーによる選手のサポート】



【クラブハウスでの分析ミーティング】



※これらはふるさと納税の返礼品等による OB からの差し入れで、練習直後の栄養補給として現役部員の体作りにお役立てしております。ご支援ありがとうございます。



# クラブ便り

平成 31 年度 第 1 号

春シーズン開幕号 2018.4.15

京都大学ラグビーフットボールクラブ

## ◆監督団より挨拶◆

### ～溝口正人 監督 (H02・神戸)～

会員のみなさまには昨年も多くのご支援ご声援ありがとうございました。みなさまのお力添えの下、Bリーグで3位という成績を残すことができました。平成の30年間で一番の結果を残した有澤組のみんなは本当によく頑張ったと思います。そして何より、昨年このレベルで戦ったことで、目標とするレベルを肌で感じられたことが一番の収穫だったと思います。Bリーグを制して入替戦に出場するチーム、そして入替戦に勝ってAリーグに昇格するチームとは...です。

今年の目標ですが【Aリーグ昇格 定期戦勝ち越し】に決定しました。「Aリーグ昇格」という目標を掲げてくれるのではないかと心の中では思っていたのですが、正直、石田新主将の口からその言葉を聞いた時には、目頭が熱くなりました。現役が「Aリーグ昇格」ということを真剣に捉え、真剣にそこを目指してくれることを何より喜ばしく思います。

しかしながら、その道は厳しく、現時点のチカラでは到底届かない距離にある目標ですので、秋までに精一杯成長して欲しいと思います。イメージは昨年の有澤組に50-0で勝利できるチームです。

さて新チームの方ですが、石田主将、安部副将の下、1月よりオフ練を開始し、3月1日より正式にシーズンインしました。3月は2～3勤1休のペースで全て午前&午後の二部練でやっております。授業もなく一年間で一番ラグビーに集中できるこの時期に、ウエイト、アジリティ、体幹トレーニングや基礎スキル等の個々人の能力強化、常日頃から言っている挨拶や掃除、そして日々の食事管理等を現役が主体となって取り組んでいます。

また、シーズンイン当初の3月1日と2日は、北川コーチの計らいで、昨年Aリーグ3位の立命館大学さんとの合同ミニ合宿でスタートしました。今年「Aリーグ昇格」を目標としている彼らにとって、Aリーグ3位のチームとBリーグ3位のチームの差を間近で見ることができ大いに刺激になったと思います。

次にひとつトピックスがあります。コメの流通大手である(株)神明様から年間2トンのお米を無料支給頂くことが決定致しました。これはOBの堀田さん(S59)のご紹介で、先方社長様宛に現役が自分達で考えたプレゼンを行った結果、ご支援いただけることになったものです。今回の件は彼らにとってもよい経験(社会勉強)になったと思いますし、このようなご厚意にただ単に甘えるのではなく、先方の期待に対して

結果でお答えしていかなければならないことを今後学んでいって欲しいと思います

4月からは本格的に新歓が始まります。事前情報を得ていた受験生の合格率が低く、かなりの苦戦が予想されますが、20名を目標に頑張ってみます。引き続きの情報収集、母校の後輩たちへの連絡やフォロー等をみなさまにお願いした際には、ご協力の程よろしくお願い致します。

4月28日の立命館大学定期戦を皮切りに、5月に成城大学、6月に慶應義塾大学、防衛大学校、関西学院大学との定期戦を予定しております。今年の目標の一つでもある「定期戦勝ち越し」を達成する為にも、この春の定期戦で3勝以上を目指して欲しいと思います。

立命館大学さんとの定期戦は先方の創部90周年記念のゲームとなっており、当日は宝ヶ池球技場において立命館 vs.同志社と立命館 vs.京大のゲームが行われる予定となっております。また、毎年菅平での夏合宿中に行なっていた成城大学さんとの定期戦は、今年より春シーズン中に宇治グランドで行うこととなりました。皆さま、お時間許すようであれば、是非グランドで現役の勇姿をご覧になってください。

最後になりましたが、今年の目標である「Aリーグ昇格」は、KIURFCの悲願というに相応しい目標だと思います。これを実現させる為には、生半可な覚悟では通用しないでしょうし、相当の努力が必要になることでしょう。しかも、現役のプレイヤーだけでなく、スタッフ、監督団、そしてOBのみなさま方が一体となって、はじめて辿り着けるものではないでしょうか。現役のみんながこの目標達成に向かい、どれだけ真摯に取り組んでくれるのか、どれだけ成長してくれるのかは私は楽しみでなりません。みなさまも是非ご期待ください。

本年も変わらぬご支援ご声援をよろしくお願い致します。

### ～藤井宏二 コーチ (H03・宇部)～

京都大学ラグビーフットボールクラブの皆様、いつも現役へのご支援ありがとうございます。

コーチという立場でチームに関わるようになって、2年がすぎました。CリーグからBリーグ復帰、そしてB復帰早々の上位進出と、喜ばしい成績をおさめることができましたのも、現役のラグビーへの情熱、日々の努力をささえてくださった、OBの皆さまのご支援

の賜物と感謝いたしております。

2018年のBリーグ、現役は素晴らしい戦いを見せてくれました。5戦目の龍谷大戦の序盤、ワンプレーで不動のレギュラーだった3人が怪我で退場してしまったことは、本当に残念でした。リーグ戦初戦で京大が競り勝った追手門学院が、リーグ戦終盤に龍谷大学に勝利し、その3大学に限れば三すくみの成績であったことを顧みると、その思いは一入です。しかし、セットプレーで上回り、キックで押し込み、相手にスペースを与えない賢くかつ攻撃的なディフェンスを継続し、終盤までフィジカルで上回ってロスコアで勝ち切るという、京大が目指すべき戦い方の典型を示してくれたことは、後に続く後輩にとっては大きな遺産になると思います。

Cリーグに落ちて悔しい思いをし、『再びBリーグからAリーグへ』という高い目標を目指し積み上げてきた、2年分の努力と経験の厚みも勝利につながったと思います。4年でメンバーが入れ替わっていく大学ラグビーにおいても、チームづくりは1年で完結するものではなく、長く連綿と続くものであるということを強く感じました。

今年のチームは、経験豊富で過去2年に渡り主力として戦ってきた4回生がいて、1回生から北川コーチの魚雷や、種々のハンドリング練習で鍛えられた逞しい3回生、2回生がいます。彼らが、魚雷、ハンドリング練を糧に、今年どう進化していつてくれるのか、楽しみです。

目標としては、私が大学一年の時に1年だけ経験した『Aリーグ昇格』を目指し、過去2年積み上げてきたベースの上に、よりフラットでスクエアに前に出るアタックラインに進化させること、キック、キックリターンを進化させること、などをこの1年の課題としてコーチして行きたいと考えております。

今年もご支援のほど、よろしくお願いいたします。

### ～北川有広 コーチ（H12・立命館大学）～

本年度も引き続き京都大学ラグビー部コーチを務めさせていただきます北川有広です。

日頃よりラグビー部に温かいご声援、ご支援をいただき心より御礼申し上げます。

新チーム「石田組」が3月1日（金）より、新たなシーズンをスタートし今年の目標は「関西大学Aリーグ昇格」と掲げました。私が彼らに伝えたのは、優勝するかしないかの前にまずは優勝にふさわしいチームを作ろうということです。それは選手それぞれの日々の行動になりますが、練習に取り組む姿勢を一流のチームにしたいと考えています。

ラグビーのフィジカルやスキルは一流になるまで経験と時間が掛かりますが、取り組む姿勢は新人でも意識づけとまわりの協力で一流になれると思います。プレー中は歩かない、タックルしてすぐ立つ、セットプレーでは必ず相手より早くセットし低く構える、声を

出して味方と連携する、外を抜かれても全力で戻り中央にトライさせない、勝っても負けても敬意をもって相手を称える、といった事です。さらに細かいところですがクラブハウスがきれいかどうか。近年、チームとして意識してきたのは掃除です。これは私が今までいろんなチームに関わってきて感じたことですが、強いチームはそういった部分がとてもしっかりしています。挨拶もそうですし、そういう意味でも優勝するのにふさわしいチームにまだまだ成長出来る可能性を持っています。私は多くの大学生を指導してきた経験がありますが、京都大学ラグビー部は私に限らず教える側が伝えたい本質を理解し、素直に受け入れて実行してくれるので短期間で今年も急成長出来るのではないかと思います。

昨年の有澤組の4回生が多く卒部しましたが、もともと大学ラグビーはそれが当然だと思っています。抜けた選手が多くなるということは、戦力的にダウンすることになるかもしれませんが、多くの若い選手にチャンスが巡ってくることになりまして、今の実力ではなく秋の本番にいかにかチーム力を上げられるかということがコーチの役割です。（昨年度の）4回生が抜けても今の選手にたくさんの経験を積ませ、秋までに心技体をベストの状態に持っていけるかが重要だと考えています。

2年前、京都大学のコーチをお受けするにあたりラグビー部の歴史や伝統を自分なりに知っておくべきと勉強しました。その中で、「礎築いた不屈の理論家 関西ラグビーと傑物たち」（日本経済新聞2017/8/8）の星名泰さんについての記事を見つけました。「星名は60年に京大監督に就いた。海外から専門誌を取り寄せて最先端の理論を研究。多くの戦術を編み出し、気鋭の理論家として知られた。独自の戦術の一つがスクラムでの「やじり戦法」。第1列の3人が、それぞれ対面する選手でなく中央の選手を目がけて圧力をかける。3対1で押すことで相手の両端の選手を無力化し、面白いように押せた。」とありました、まさに今の京大のスクラムの組み方も矢印の先を相手の2番の左肩と1番の右肩のところで突き破り、相手の1番を外へ弾き出す組み方をして多くの試合でスクラムを支配してきました。60年前の伝統のスクラムで今シーズンも試合を優位に進めたいと思います。

最後になりますが、Aリーグ昇格を目指す上で、京都大学らしいひたむきな前に出て刺さるタックルと後半最後まで落ちない運動量、やじりのスクラムを武器に、応援して頂いている皆様がわくわくするような、興奮するような試合を今シーズンもお届けしたいと思っています。秋のリーグ戦はもちろんのこと、春シーズンの定期戦や練習試合からぜひグラウンドに足を運んでいただいて、選手にご声援を頂ければと思います。本年度もよろしくお願い致します。

## ◆新三役による今シーズンへの抱負◆

### ～石田貴一 主将(法学部・本郷)～



今年度主将を務めております石田貴一です。OBの皆様方には、昨年度のふるさと納税を活用した返礼品の寄付をはじめとする、多大なご支援をいただきありがとうございます。春休みの期間が終わり、新歓や定期戦の時期が始まりました。なかなかチームで

まとまった練習時間が取れない中で、春シーズンの短さを感じています。チームとしましては、昨年度から16人が引退し、手術などで多数のプレイヤーが離脱する厳しい状況ですが、今まで出場機会に恵まれなかった選手たちの活躍を見ることができ、新入生も含めてチーム全員に期待しています。

そして、私たちはAリーグ復帰を今年度のチーム目標として掲げました。もちろん、Bリーグ上位2校との戦力差は明らかであり、入れ替え戦にも勝つとなると、立ちはだかる壁は厚く、簡単には越えられません。しかし、その壁の厚さを知れたことも昨年の成果であり、今年度はAリーグを目指せる絶好の機会だと思っています。戦略としては、京大としてのハードワークを忘れることなく、セットプレーで試合の手綱を握り、昨年は課題が残ったアタック面で基本プレーを徹底することによりディフェンスの負担を減らすことで必ずAリーグのチームと互角に戦えると考えています。

また、Aリーグ復帰というチーム目標を達成するためのスローガンを“Interactive”と決めました。これは、昨年チームを支えた多くの部員がチームを離れ、否が応でも部員全員が試合や練習で重要な役割を負うことになった今年度では、試合に出る人だけではなくチーム全員で戦う必要性があるからです。加えて、チームスポーツを行ううえで、個人の力に勝敗が左右されるということはとてもつまらないことです。これに関連して、私個人としましては、主将としてのリーダーシップを今一度問い直しています。強烈な指導力で部員を引っ張るというリーダーは、とても魅力的ですが、様々な価値観を持った部員に共通認識を持たせ、チームの力を引き出すことは難しいと思います。京大らしいラグビーとして、自由な雰囲気は残しつつも、部内での規律を維持するために主将として何ができるかを日々試行錯誤していきます。

私共現役部員は、自分たちが満足する結果を目指すとともに、京都大学ラグビー部の顔として恥じぬような品位持ち、OBの皆さまに胸を張っていただけるような成績をあげられるように精進してまいります。昨年度と変わらぬご声援を何卒よろしくお願い申し上げます。

### ～安部武 副将(教育学部・大分舞鶴)～



初めて人に自分の体をぶつけたのは中学1年生の頃。生まれて初めてのラグビーの試合で、飛ばされ、弾かれ、芝を噛んだ。体は痛く、気分も悪い。けれど、それまで人生では感じることのなかった、言いようもない興奮と甘美な

優越感が確かに心に残っていた。私はラグビーに魅了された。

あれから、今年で10年。「なんとなく」魅了されたラグビーを「なんとなく」続けてきて10年。改めて本当にきついスポーツだと思う。痛いし、辛い。こんなにきついのに、なんでラグビーを続けなければならないのだろう。そろそろなんとなくでは納めできなくなってきた。自分がなぜラグビーをしているのか、なぜこのスポーツに魅了されたのか、今回は、自分なりに導き出した、この問いへの答えを記したいと思う。

ラグビーは「いかに自分たちが相手より優れているか示す」スポーツだと感じる。全身全霊をかけて体をぶつける。その局面一つ一つに意地とプライドをかけた闘争がある。その闘争は、より優れた身体を、技術を、心構えを持ったものが制する。ラグビーは、そんな場面の連続である。ラグビーを「闘球」とはよく言ったものである。闘争の先にあるのは、勝敗を通じて決する自分たちと相手との優劣である。勝利したものは全身全霊をかけて戦った末の「相手よりも優れた存在である」証明を得られる。なんと気持ちのいいことか。もはや本能的な快感とも言えるこの感情に私は魅了された。

また、ラグビーは「紳士のスポーツ」と言われることもある。それについてはこう考えることもできる。相手に対するリスペクトを忘れずに、紳士的に振る舞ったほうが、勝った時により相手より優れていることを示すことができるのではないかと。「試合には勝ったけど、振る舞いが幼稚だ。」などと文句をつけせず、精神面まで完膚なきまでに叩きのめす為の布石なのではないか、と。

これは、京都大学ラグビー部でラグビーをする理由でもある。狭き門と言われる受験をくぐり抜け、勉強においては非常に優れている(と一般的には見られる)からこそ、勝利の価値は大きい。より完全な勝利に近づけるからだ。私は京都大学ラグビー部で、より大きな勝利の喜びを手に入れるため、ラグビーに取り組んでいる。

## ◆平成 30 年度卒業生の挨拶◆

### ～寺島康平 主務(経済学部・浦和)～



新年度の主務を務める4回生の寺島康平です。一年間よろしくお願い致します。この歴史ある部の主務を任されたことは、非常に光栄なことだと思っておりますし、歴代の主務の方々のような頼りがいのある主務になれるよう

日々精進して参ります。今回は決意表明ということで、私が主務を務めるにあたり決意していることを三つ述べさせていただきます。まず一つ目は京都大学ラグビー部の代表として責任を持ち、堂々とした振る舞いをすることです。主務は試合を組む際や、リーグ戦の会議、合宿やその他の対外的な交渉の場において、部の窓口となって交渉しなければなりません。歴史あるこの部の代表として、礼節を弁えた行動を心がけ、京大ラグビー部の品格を保つことが私の最低限の使命であると心得ています。二つ目は部を裏から支えることでチームの勝利に貢献するということです。一つ目の決意と重なる部分もありますが、主務としてチームの希望通りに試合をセッティングしたり、合宿を計画したりすることで、チームの強化を支えることができると思っています。これは主務にしかできない仕事であるため、監督陣や主将と「interactive」にコミュニケーションを取ることでチームの意向を最大限に試合などの形に反映させていきたいと思っています。最後に三つめは、人を動かして仕事を回すということです。主務に任命されてから早くも3カ月が経とうとしています。部の運営に関わる仕事のほぼ全てが主務に任されるということをもって実感しております。私はこれまで副務として主務の補佐という形で仕事を行ってきましたが、私自身の仕事内容は基本的に主務に言われたことを行うだけでしたので、私から誰かに仕事を振るという経験は今まであまりしていません。ですが主務となった今、自分一人でできる仕事量には限度があり、その仕事を如何にして上手に周りの人に振り分けるかが重要であると感じています。そして仕事を振った後のフォローもそれと同じくらい重要なことです。仕事を任せただけで責任を放棄するのではなく、その人が仕事をやり終えるまでしっかりフォローし、責任感のある行動を心掛けたいと思います。主務の経験は社会人になっても役立つことが多いと思いますので、「社会人0年目」くらいのつもりで、今年一年を自分の成長の年にし、選手と主務の二足の草鞋で、Aリーグ昇格に向けてチームを引っ張っていこうと思います。

### ～有澤善大 (工・建築、仙台第二) 三井物産～

ラグビー部を引退して3ヶ月が経ちました。卒論、卒業、そして就職準備などラグビーへの意識が薄まっていた近頃、後輩の初試合の映像を見てラグビー部の日々を鮮明に思い出しました。そして最初に浮かんだ感情はラグビーをしたいというシンプルなものでした。

私たちの代は目標を達成し気持ちよく引退させてもらえた、と思っていました。それは確かにそうなのですが、まだ本気でラグビーに取り組むことのできる後輩を素直に羨ましいと思ってしまいました。

一つ目標を達成するとまた一つ上の目標が見えてきます。ここまでこられたのだから次まで、と現役中に感じることは少なくなかったです。しかしこの目標からの目標という連続するステップに終わりではなく、だからこそ後輩へ託すのだということに気づきました。これこそが学生スポーツの醍醐味だと思います。

ラグビー部で過ごしていた時間は本当にかけがえないものだったと今感じます。そしてそれは支えてくれた家族、監督団、先輩、後輩、そしてOBさんのおかげに他なりません。また学部卒業後2年間共に戦ってくれた志村さんには心から感謝しています。皆様のおかげで最高の経験をすることができました。ありがとうございました。製氷機の設置や、芝の管理、応援に駆けつけて下さる人等本当に様々な面でサポートして頂きました。これからはOBとして、皆様と共に、現役の支援に尽力致します。

### ～石井大智 (工・電電、須磨学園)

#### 京都大学大学院工学研究科電気工学専攻～

僕にとってこのラグビー部で過ごした4年間は充実したものでした。

高校では部活をしてなかったため、大学で部活をやるはずがないと思っていましたが、ラグビー部と運命的な出会いを果たし、気づけばラグビー部の一員となっていました。大学からラグビーを始めたため、最初は怖くて痛くて練習に行きたくないと何度も思いました。1年程経ち、ようやく慣れてきたところで怪我をしてしまい、ラグビーから離れたことで再び復帰してラグビーをすることが怖くなった時期もありました。振り返ると、ラグビー部での思い出はつらい思い出ばかりです。しかし素晴らしい先輩方、後輩、そして多くの同期に恵まれてなんとか4年間続けることが出来ました。最後の1年はラグビーを楽しむことができ、高校の時には味わうことの出来なかった充実感を感じることができました。

プレイヤーとしては、A戦には出ることはなく、ほとんどがB戦での出場でした。最後の東大戦でもB戦のみの出場でしたが、1年間共にBチームとして戦ってきた仲間と楽しくラグビーをすることができ、勝てたことは良かったです。

最後になりましたが、ラグビーという素晴らしいスポーツに出会えて良かったです。また、支えて下さった多くの方々に感謝致します。4年間お世話になりました。ありがとうございました。

#### ～岡村洸篤（法・西大和学園）

##### 京都大学法科大学院～

昨年度、主務を務めました岡村洸篤です。この4年間を振り返ってみると、ほとんどが辛いことでした。正直軽い気持ちで大学からラグビーを始めたのですが、自分の性格に合わないと思っていましたし、途中で何回も辞めようと思いました。ただ、ここで辞めたら何も残らないし、自分のためにならないという気持ちの方が強くありました。結果的にAメンバーには定着できませんでしたが、最後の東大戦で少しだけ今までの努力が報われたのかなと感じています。やっぱり最後までやり通してよかったなと思いました。

また、4回生時には主務というとても責任の大きな仕事を務めさせていただきました。最初はミスも多く、チームメイトやOBの皆様にも多大なご迷惑をおかけしました。そのような中で、このクラブは現役だけではなく、OBの皆様の様々なご支援があって成り立っていることを痛感いたしました。これからは私もOBの一員となりますが、何らかの形で京大ラグビー部を支えていきたいと思っています。

最後になりますが、今まで4年間多大なるご支援、ご声援の程ありがとうございました。

#### ～窪田悠斗（理、吉田）

##### 京都大学大学院理学研究科～

僕は部活という外に出る理由があったおかげで、授業にきちんと出てストレートで卒業することができました。ラグビー部に入ってなかったら引きこもりになっていたと思います。しかしその分、4年間で膨大な時間をラグビー部に費やすことになりました。これが正しかったかどうかは分かりませんが、それなりに楽しかったのでOKです。また、僕が最も誇りに思うのは、この歴史あるクラブにおいて平成で1番の成績を残せたことです。後輩にはこのままAリーグを目指して努力して欲しいと思います。最後に、OBや保護者の皆様のお陰で素晴らしい4年間を過ごせました。ありがとうございました。

#### ～古座岩祐樹（法、大阪桐蔭） 京都大学～

4年前、私は京都大学体育会ラグビー部に入学しました。振り返ってみると、長かったようで短い4年間でした。

私は怪我ばかりで、思うようにラグビーができず、選手として悔しさと戦う毎日でした。心が折れそうになったことも何度もありました。ただ、それでも皆と共に目標に向かい、努力し続けられたのは、このチームや仲間たちが好きだからです。困難にぶつかる度に、仲間の存在の大きさを知りました。

ラグビー部を引退し、人生の岐路に立った今、この4年間で今の私を作っているのだと実感しています。苦悩の日々とそれを乗り越えた経験、勝利の喜び、そして、このチームを通して出会った仲間たちは自分にとってかけがえのないものです。京都大学ラグビー部の一員として、4年間駆け抜けたことを誇りに思います。

今後は、一OBとして、高い目標に挑む後輩たちを支えていけたらと思います。

最後に、同期や先輩、後輩、そして監督団やOBの方々、保護者の皆様のおかげで、最後で最高の青春を送ることができました。4年間本当にありがとうございました。

#### ～古元泰地（工・電電、明和）

##### 京都大学大学院情報学研究科

##### 通信情報システム専攻～

私の代は非常に恵まれた代だと思っています。頼りになる先輩後輩はもちろんですが、同期16人という多くの仲間との邂逅がありました。経験未経験問わず全国から人が集まり、仙台一、二、三高から一人ずつ入ったことについては運命的なものすら感じました。

伝統ある京都大学ラグビー部で1回生のときから多くの試合に出させて頂いたことは、選手冥利に尽きると思っています。最終学年の春シーズンを怪我で活動できなかったことは、もどかしく悔しい思いもありますが、リーグ戦、九大戦、東大戦で仲間とともに積み重ねた勝利は今でも鮮明に脳裏に刻まれており、非常に濃密でかけがえのない4年間を過ごさせて頂いたと思っています。

最後に、監督団、OBの皆様、保護者の方々、そして先輩後輩、同期。多くの人の支えを受けてプレーできていたことに改めて感謝しています。OBとなり今後はサポートをしていく立場に変わったことを自覚するとともに、現役の活躍を見るのがすでに楽しみになっています。4年間ありがとうございました。

#### ～齋藤瑞輝（農・応生、仙台第一）

##### 京都大学大学院工学研究科電気工学専攻～

昨シーズン副将を務めました齋藤です。昨年は多くのOBの皆様や父兄の方々にグラウンドまで足を運んでいただき、誠にありがとうございました。非常に力になり、苦しいときに奮起できたのは、たくさんの応援があったからと存じます。

昨シーズンは、チーム発足時に掲げた「Bリーグ3位以上」という目標を無事達成することができました。Cリーグから復帰した初年度にこのような成績を残すことができ、大変嬉しく思います。これは単なる偶然ではないと考えています。Cリーグから昇格した次のシーズンで好成績を残したチームは過去にもあり、同じBリーグで戦う神戸大、追手門学院大がその例です。この理由として、前年度のチームのデータが対戦校にないなどの理由が考えられますが、それ以上にチ

ームの勢いということが挙げられると思います。C リーグにいた一年間は、先輩方を中心に、一年での復帰を果たすためのハードワークを積みました。B リーグに復帰してからは、よりハードなトレーニングを続けました。こうしたハードワークの積み重ねが今年の結果に繋がったと考えます。ハードなトレーニングから逃げない同期の主将、有澤とプレーできたことは、大学生活の誇りです。

選手としては非常に未熟で、数えきれないほどチームに迷惑をかけましたが、こうして四年間を無事に終えることができたのは、応援してくださる皆様や仲間の支えなくしてはあり得ませんでした。また、充実した四年間を過ごせたのは、熱心に勧誘してくださり、六年間もプレーされた志村さんがいてくださったからでもあります。本当に周囲の方に恵まれた幸せな四年間でした。心からお礼申し上げます。

今シーズンは、昨年を上回る目標を設定した強い学年が中心となる一年間となります。大きな期待を寄せるとともに、昨シーズンと変わらぬ声援をよろしくお願いいたします。改めて、誠にありがとうございました。

#### ～関根諒（法・日比谷）京都大学法科大学院～

部活から離れて数ヶ月が経ち、新しい暮らしは楽しい反面、高校からやって来たラグビーのない生活に少し違和感もあり、これまでの思い出が時々頭をよぎります。

4 年前、入学して最初に黄檗の地を訪れた時、吉田キャンパスからの遠さと青々とした広大な天然芝のグラウンドに驚かされたのを覚えています。東京で狭苦しい土のグラウンドが当たり前だった僕にとって、キックを変な方向に飛ばしても外に出ていけないというのは素晴らしいことだと感じました。また、学生自らが芝を育てるというのもなかなか革新的だと思いました。時々枯れてしまうのも含めて、部員がグラウンドを作っていくのをこれからも楽しんでいって欲しいと思います。

昨年高校の後輩が京大に遠征に来てくれた際、顧問の先生から京大はいい環境で部活ができているという言葉いただきました。遠い遠いと思っていた宇治グラウンドでの生活も、人に言われて恵まれていると気づかされ、このような場を作ってくれた方々に感謝しなければと今さらながら感じます。

これからも黄檗の地で部活が盛り上がっていったらと思っています。4 年間ありがとうございました。

#### ～竹田将克（医・人健、膳所）

##### 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻～

京都大学ラグビー部での4 年間は本当にあっという間の毎日でした。その中にはとても辛い練習もありましたし、悔しい負けを経験したこともありました。ですが、それを大きく上回る程みんなと過ごした日々は

楽しいものでした。

私は、毎シーズン怪我が多く中々一年を通して試合に出場し続けることができず、そのせいで何度もチームメンバーに迷惑をかけてしまいました。ですが、4 回生として迎えた最後のシーズンでは、その全ての試合に出場することが出来ました。そしてその中で、平成で最も良い順位である3 位で終わることができ、それが私にとって格別な思い出となりました。

最後になりますが、同期や先輩、後輩、監督団を始めとする OB の皆様、また、身近に支えてくださった保護者の方々と本当に多くの方々にサポートしていただいたおかげで大学ラグビー生活を最高の形で終えることができました。本当にありがとうございました。

#### ～田中祐輝（工、筑紫丘）

##### 京都大学大学院工学研究科材料工学専攻～

京都大学ラグビー部で過ごした4 年間は、あっという間に終わってしまったと感じるほど濃密な時間でした。充実した日々を送ることが出来、この環境を与えてくれた OB の方々、コーチ、同期や後輩にとっても感謝しています。

下級生から試合に出場させていただく機会が多かったのですが、勝利に貢献するようなプレーはあまりできず、C リーグ降格という非常に悔しい経験もしました。

3 回生では手術もし、試合にもあまり出場する事が出来ませんでした。そんな中、チームが勝利を収めていくのを見て、チームが勝って嬉しさ半分、チームは勝つけど自分は出場してない悔しさ半分で複雑な想いを抱いていました。

しかしそんな事を感じながらも、復帰したら必ず、チームに必要な存在だと思ってもらえるようなプレーをしてやろうという想いで、泥臭くリハビリを続け、地味なトレーニングも真面目にやってきました。

結果4 回生では、試合の流れを変えるようなタックルが出来るようになり、少しは勝利に貢献するようなプレーが出来たのではないかと自負しています。運良くベスト 15 にも選んで頂き、幸せなラストイヤーを過ごせました。

正直最後の年が1 番ハードな事をやっていたとは思いますが、嫌だと思えることは1 回もなく、ラグビーが楽しくてしょうがなかったです。僕のラグビー人生で最も楽しい1 年だったと言って過言ではないです。引退してこの楽しい日々が終わってしまうのは寂しいです。もっと上を目指しラグビーをしたい気持ちはありますが、これからは OB として何らかの形でチームを支援していこうと思います。4 年間本当にありがとうございました。

## ～永島健太郎（工・物工、熊本）

### 京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻～

引退して数ヶ月が経ちましたが、4年間の大学生活を振り返って、頭に浮かぶのはラグビーのことばかりです。自分の大学生活に占めるラグビーの割合がどれだけ大きかったのかを改めて実感しています。

自分は1回生のころから怪我ばかりで、1回生の秋には足首の手術もしました。本当に復帰し、先輩達のようにAチームとして濃紺のジャージを着て強豪私立に太刀打ち出来るのか、リハビリをしながら不安に思うこともありました。そんな中でも、ラグビーを続けることができたのはこの京大ラグビー部というクラブが素晴らしく、僕自身がクラブを好きだからだと思います。

"ただラグビーが好き"中学から10年間この一つの気持ちだけでラグビーをしてきました。きっとこの気持ちは今後、ラグビーと関わる機会が減っていても続くと思います。

このような気持ちにさせてくれた京大ラグビー部というクラブに感謝します。最後になりましたが、同期、先輩、後輩、監督団、コーチ陣、OBの皆様最高の4年間を本当にありがとうございました。

## ～沼田章良（工・工化、大手前）

### 京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻～

大学生活での思い出の多くが、吉田ではなく宇治にあるのは僕だけでは無いと思います。

初めて宇治グラウンドを訪れたのは、高校1年生の時でした。色々と寄り道をしましたが、4年前にラグビー部に入部した時の事は、今でも鮮明に覚えています。宇治での思い出は必ずしもいい思い出ばかりではありません。ですが、どの思い出もかけがえのないものです。

僕が所属していた4年間は、京大ラグビー部の転換期のような時期だったと思います。Cリーグ降格からBリーグに復帰し、昨年はBリーグで3位になりました。その中で、自分自身の弱さと向き合い、ラグビー部の仲間とともに困難を一つ一つ乗り越えていく過程は、苦しくも楽しいものでした。後輩にも、自分と仲間を信じて京大ラグビー部でしか出来ない経験をしてもらいたいと思っています。

最後になりましたが、監督団はじめ、先輩方、同期、後輩、OBの皆様、そして保護者の皆様4年間お世話になりました。ありがとうございました。これからはOBとして、ラグビー部の活躍を願っています。

## ～服部翔悟（工・工化、大阪桐蔭）京都大学～

4年前の新歓でPVを見た後に、「この部活にはいつて、絶対に後悔させないから」と肥沼さんが言ってくれたのですが当時の僕は不安でした。しかしそんな不安はラグビー部の活気で吹き飛ばされました。子供のようなことではしゃぐ先輩たちを見てきっとこの人達となら心配することなんてないと思われました。

どんなにしんどいフィットネスでも声を出して盛り上げコンタクト練習では体を張る、オフとの違いに頼りになる先輩だと憧れていました。そんな先輩になれるように4年間ラグビーを続けた僕を後輩たちはどのように感じているかわかりませんが、誰か一人でも良いのでかっこいい先輩だったなと思ってくれたら4年続けてよかったなと思います。

振り返ると4年の思い出にはラグビーのことしかなく休日も部員と遊んでいた記憶しかないのです、この部活に入って本当に後悔はないです。

4年間ありがとうございました。

## ～森野達平（医・人健、兵庫）

### 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻～

練習で息切れをしなくなって、早3ヶ月が過ぎようとしています。これからは少しずつ、階段でも息が切れてくるのかと思うと少し虚しい気持ちもありますが、先輩方もこのように感じてきたのでしょうか。部活を終えた人が、4年間あっという間だったとおっしゃっている声をよく聞きますが、私にとってはとても長い4年間でした。それは苦痛だったとか楽しくなかったとかそういう類いの理由ではなく、それぞれの1年間の思い出として色濃く残っており、充実した毎日だったからです。

4年間、毎日毎日、思い出だけで汗をかきそうなメニューに仲間と共に励んできたことは覚えています。私はそれぞれの試合について細かく記憶している方ではありません。しかし、出場したひとつひとつの試合から得られた喜び、悔しさが自分の中に残っていることは確かだと信じています。それぞれの経験がきっと私の人生において、つらいとき、苦しいときに背中を押してくれるはずです。

最後にはお世話になった皆様、ありがとうございました。これからはOBとして貢献できればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

## ～森本勇輝（医・人健、神戸）京都大学～

四年間お世話になった監督団、OBの方々、そして保護者の皆様、本当にありがとうございました。前年度フォワードリーダーを務めさせていただきました森本勇輝です。私は留年し今年は就活くらいしかやることがないので、頼もしい後輩達の活躍を見届けつつ、出来る限りの手助けはしたいと思います。またフォワードリーダーということで、特に力を入れていたスクラムについて振り返りたいと思います。私は2回生の頃に北川コーチと初めてお会いしました。当時は自分が未熟過ぎたのもあり背中と首がずっと痛く、合宿ではスクラムを組むのが心底嫌だった思い出があります。しかし秋には同志社戦でスクラムトライを取るなど成長が結果に現れ始めた時からはずごく楽しく組めるようになりました。それから更に2年間北川コーチの御指導のもと練習をし続け、リーグ戦でスクラムを強みに戦えるようにまでありました。楽しくスクラムに取

り組めるようになり、結果も出せたことは本当にコーチに感謝しています。またこの経験は人生の良い財産となるのではないかと思います。最後になりますが、私は本当に周りの人に恵まれました。この場を借りて感謝を伝えたいと思います。先輩や後輩そして同期のみんな、4年間楽しく過ごさせてくれてありがとうございます！これからもよろしくお願いします！

#### ～森谷拓冬（理、仙台第三）

##### 京都大学大学院理学研究科～

私がまだ故郷の宮城にいる時、毎朝バスで一緒になるサラリーマンの方がいました。彼はいつも京大ラグビー部の上着を着ていました。どんなに伝統があって、どんなに誇り高いチームなのかと見ていましたが、京大は遠い世界のことでした。しかし、京大に入り、そして、気づけばラグビー部に入っていました。

この4年間は苦しい日々でした。厳しい練習、技量不足、情けなさ。何度も心が折れそうになりました。それでも、自分より苦しい思いをして歯をくいしばる人がいて、支えてくれる人もいて、熱心に指導するコーチ陣がいました。ある時の試合では一緒に涙を流してくれる人もいました。そんな人がいることを銘じ、「ひたむき」という言葉に込め踏ん張ってきました。

そして、4年目はキャプテンを中心に良い結果で終わることができました。皆が目標に向かって、信じてひたむきになった結果だと思います。信じれば、こうして思いもよらない結果が待っているかもしれないことを学べて良かったです。

振り返れば、高校の時では想像もしていなかったことを経験できた4年でした。こんな情けない私がこういう経験ができたのも、素晴らしい人々との出会いがあり、そして、沢山のご支援をいただいたからです。感謝を忘れずに、ひたむきでいれるよう今後も精進して、ラグビー部に報いたいです。これまでご支援ご声援ありがとうございました。

#### ◆ 連絡先等 ◆

#### ◆卒業生の皆さんへ

##### ～KIU R.F.C. 会長 水田和彦～ ◆

卒業おめでとうございます。クラブを温かくご支援いただきました関係各位、保護者の皆様方に感謝申し上げます。

皆さんのコメントを読ませてもらいました。4年前に全国から集まったいろんな考えを持った新入生が、縁ありラグビー部の門をたたきました。以来それぞれの前に立ちはだかる高い壁に立ち向かい、悩みながらも仲間意識を育みともに乗り切った4年間。やりとげた後での満足感がひしひしと感じられます。身体はもちろん精神面でも大きく成長されたことでしょう。「体育会ラグビー部」は京都大学における課外活動ですが、それも含めて京都大学での教育です。皆さんが共に高みを目指して人間的に成長されていく姿を見せてもらったことを感謝するとともに、その姿勢が後輩に引き継がれていくものと信じています。

創部以来の100年近く1000人以上の先輩方もそうであったように、きっとラグビーが一層好きになったことでしょう。皆さんはこれから、院での研究あるいは会社での仕事とさらに忙しく壁は高くなりますが、ここでの経験を人生のバックボーンとし、これからも好きなラグビーに楽しく携わってください。KIU R.F.C.には、「ラグビー大好き、現役の役に立ちたい」という点では一致した多くの多様な仲間が待っています。世代を超えた仲間としてお付き合いよろしくお願いします。

皆さんのこれからの健康と活躍を祈念します。

#### ◆春の練習試合と定期戦の日程◆

- 4月28日（日）  
立命館大学定期戦（宝ヶ池球技場）
- 5月19日（日）  
成城大学定期戦（京大宇治 G）
- 5月25日（土）  
練習試合 大阪国際大学 B（京大宇治 G）
- 6月 9日（日）  
防衛大学校定期戦（防衛大学校 G）
- 6月15日（土）  
慶応義塾大学定期戦（京大宇治 G）
- 6月23日（日）  
関西学院大学定期戦（京大宇治 G）

## ◆ (株)神明様オンラインショップでの

### 商品購入ご協力をお願い◆

この度、コメの流通大手、(株)神明様より、京大ラグビー部の現役に対し精米 2 トン/年を無償で供与頂くことが正式に決定されました。毎月 1 回、3 月から 12 月までの 10 回に分けて、一度に 200kg (5kg 袋 40 個) ずつ提供いただく予定です。栄養面の補強による体力強化のみならず、浮いた予算でトレーニング器具等の購入が可能となり、新チーム強化の大きな支援となります。

つきましては(株)神明様に感謝の気持ちを伝えるべく、5 月 6 日までを区切りに以下の(株)神明様のオンラインショップで当社製品の購入にご協力をお願いします。

下記当社オンラインショップで購入手続きを行う際に、「備考欄」がありますので、そこに「京都大学ラグビー部へのご支援、ありがとうございます」「京大ラグビー部のOBです」と一言入力いただきますと、京大ラグビー部関係者からの購入であることが先方にわかります。

個人向け通販サイトホーム

<http://shop.akafuji.co.jp/>

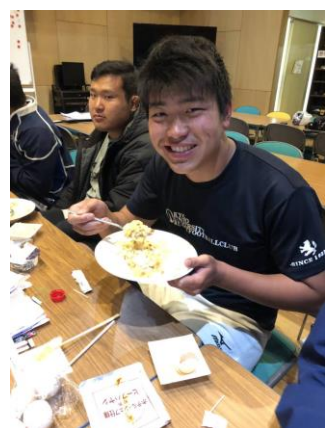
あかふじ米シリーズ (当社のブランド米)

<http://shop.akafuji.co.jp/shopbrand/akafuji/>  
ご当地米 (コシヒカリ等の産地/品種を選べる)

<http://shop.akafuji.co.jp/shopbrand/gotochi/>

もちろん 5 月以降も当社オンラインショップでコメを購入いただけますと大変ありがたく、是非ともお願いしたいと思います (その際にも上述の「備考欄」への「京大ラグビー部関係者」であることがわかるメッセージの入力をお願いします)。今回、期間を区切って集中的に行うことを考えましたのは、「京大ラグビー部関係者からの注文が増えた」ことを無償提供開始直後にインパクトのある数字で示すことができれば、来年度以降のご支援継続につながる可能性が高くなるのではないかと今回ご仲介いただきました堀田様からもご助言をいただいております。

日頃、主食として食べておられるお米をオンラインでご購入頂くだけでするので皆様のご負担も小さく、スポンサー企業にとっては売上アップに繋がる協賛であれば、来年度以降も協賛を継続して頂けることも期待できるかと思います。宜しくご賛同の程お願い申し上げます。



(株)神明様よりいただいたお米を練習後に食べる様子

### ◆ 編集部より◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになるとと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務委員長 岡本大和 (H23)

総務委員 塩尻大也 (H28)

総務委員 石田充 (H30)

総務委員 古元泰地 (H31)

## ◆フォトギャラリー◆

【3月1日～3月2日 立命館大学との合同合宿】



【3月17日 追い出し試合(タッチフット)】





# クラブ便り

令和元年度 第2号

リーグ戦直前号 2019.9.5

京都大学ラグビーフットボールクラブ

## ◆監督団より挨拶◆

### ～リーグ戦開幕に向けて～

#### ～溝口正人監督 (H02・神戸)～

会員のみなさまには今年も多くのご支援ご声援賜り、誠にありがとうございます。

9月20日からは待ちに待ったラグビーワールドカップ(RWC)が始まります。そして、今年はこのRWCの影響もあり、リーグ戦のスケジュールが例年とはかなり違っております。京大の所属する関西Bリーグは例年より約2週間早い9月7日(京大の開幕戦は8日)に開幕致します。また、昨年にはリーグ編成があり、Bリーグは10チームから12チームになりました。これをB1、B2という各6チームの二つのリーグに分け、まず一次リーグ5試合を行います。ここでの結果を基に、それぞれのリーグの1-2位グループ、3-4位グループ、5-6位グループ同士の各4チームで二次リーグ3試合を行い最終順位を決めることとなります。Aリーグとの入替戦に挑戦できるのは例年通り2チームです。今年目標である“Aリーグ昇格”を果す為には、まず一次リーグで2位以上に入らなくてはなりません。みなさまもよくお分かりの通り、昨年Bリーグ全体で3位のチームなら順当に一次リーグは……というような理屈が通用する甘い世界でもありませんので、とにかく当面は一次リーグでの2位以上を目指して頑張っていきたいと考えております。

さて、チームの方ですが、春休みの2部練、GW合宿の3部練をはじめ、石田主将、安部副将を中心に春から昨年以上のハードワークを課してきました。昨年より初めた小グループでの食事管理やウエイトトレーニングも定着し、(株)神明さんよりご提供いただいているお米、OBや保護者のみなさまからの差入れによる補食の効果でカラダもどんどん大きくなっております。特に、1回生はほぼ全員が春から平均8kgほど体重が増えました。

次にリクルートですが、1回生でプレイヤー14名、マネージャー4名、2回生でプレイヤー2名、マネージャー1名の計21名が入部してくれました。プレイヤーでは5名の未経験者、アメリカン、医学部ラグビーからの転部がそれぞれ1名、その他、久しぶりに京大生女子マネージャーが3名入ったことがトピックスでしょうか。今年の新入生が4回生になる2022年には、京大ラグビー部は創部100周年を迎えます。是非、素晴らしい100周年となるよう立派に成長して欲しいと思います。

そして戦績についてですが、春シーズン、夏合宿を通してなかなか満足のいく結果を出せておりません。残念ながら今年目標の一つである“定期戦勝ち越し”は早々に潰れてしまいましたが、主たる目標である“Aリーグ昇格”に向け、部員達の心は折れていませんので、ご安心を！なかなか結果の出ない現実にも真摯に向き合い、日々躓き続けておりますので、きっとリーグ戦ではこれまでにない戦いを見せてくれるものと信じております。

最後になりますが、昨年16人という多くの4回生が抜け、今年21人の新たな部員を迎え入れることができたとは言え、チーム作りが遅れているのは事実です。しかしながら、これまで部員達がやってきたことは間違いではなく、確実に個々人のチカラは付いてきており、長期離脱していた怪我人も徐々に復帰、新戦力も急激に成長しております。そして、北見合宿ではチームの課題も明確になり、ここから一気にチーム力を伸ばしていける時です。

昨年Bリーグの上位を経験し、Aリーグとの距離感を肌で感じ、そして今年、Aリーグ昇格を目標に掲げた彼等が一体どこまでやってくれるのか、みなさまも是非ご期待ください。

お時間許すようでしたら、是非グラウンドに足をお運びいただき、大きな目標にチャレンジする後輩達へのご声援をよろしくお願い致します。

#### ～藤井宏二 コーチ (H03・宇部)～

平素より熱いご支援をいただき、誠にありがとうございます。藤井です。この原稿を書いている時点で、リーグ戦の開幕まで、いよいよあと1週間となりました。

今年は、ワールドカップが日本で開催されるため、昨年と大きく日程が変わり、その影響で、急遽、北海道で夏合宿を行うこととなりました。合宿では同志社さんと同じ施設に滞在し、何度か合同で練習を行い、同志社の元神戸製鋼のコーチ陣もレクチャーしてくれました。網走でも法政大学とFWは合同練習、BKは法政大のヘッドコーチ(元神戸製鋼ヘッドコーチ)よりDFのレクチャーを受け、刺激ある練習ができました。宿舎の食事ボリューム満点で、遠い目をして完食に四苦八苦する選手もいました。唯一、惜しむらくは天候が悪かったことで、合宿終盤には台風も襲来し、飛行機を確保するために予定を切り上げるなど、現役三役もスタッフも大変苦労したと思います。

その合宿では、勝利を目指した名城大戦に敗戦し、メンバー、監督団で話し合い、セットプレー、ディフェンス、エリアマネジメント、ここへもう一度こだわることを確認しあいました。台風の影響で同志社との試合はできませんでしたが、代わりにセッティングした山梨学院大戦で、負けはしたものの、チームとしてのこだわりが随所に感じられ、京都に戻ってからも、こだわり続けて日々の練習に励んでいます。

思えば春シーズンからこれまで勝てないながらも、石田主将引っ張る厳しいトレーニング、上回生による後輩への食事やウェイトの指導などを継続してきました。チームとしての一体感が高まり、昨年出場していなかった選手たちが成長し、1年生の選手やマネージャーもすっかりチームの一員らしくなったと感じます。勝ち負け抜きに、今年の経験は彼らの人生にとって大きな財産になると思いますが、頑張っているからこそ、力を発揮して目標とするAリーグ昇格を勝ち取ってほしいと日に日に強く感じています。

安部副将もリーグ戦後半には間に合いそうです。まずは前半の3試合、チームが、蓄えた力を一気に爆発させ、成長した姿を皆さまにご覧いただけるよう、コーチとして努めてまいります。

引き続きご支援よろしくお願いいたします。

## ◆主将によるリーグ戦へ向けての抱負◆

### ～石田貴一主将（本郷）～

OBの皆様方には日頃より格別のご協力をいただき、誠にありがとうございます。主将の石田貴一です。

7月のオフが明け、夏の異常気象の中で練習を重ねてきましたが、早いもので間もなくリーグ戦が開幕しようとしています。去年のリーグ戦を思い出すと、有澤主将や頼もしい4回生のもとリーグ戦3位という目標をチームで達成いたしました。私自身も全試合にフル出場し、個人的に良いパフォーマンスを発揮して、グラウンド上で勝利を喜べたことは懐かしい記憶として今も色濃く残っています。しかし、そんな輝かしい結果に私自身も満足する中で、振り返って考えてみると対龍谷大戦の敗戦の悔しさというものはずっと忘れることができませんでした。まず試合内容として試合開始早々に主力FWがケガで交代するというもので、加えてその敗戦によって京大ラグビー部の自力での入替戦への出場は不可能になり、私自身がAリーグでプレーするという夢も叶わなくなりました。

そうして、先輩たちが引退し、いざ自分たちの代が始まろうとしていた時に、今年のシーズン開始前にシーズン目標を決めなければならないという状況で、去年の主力メンバーが多く抜けるというチーム状況に鑑み、去年の達成目標を維持するということの方が実現可能性の面から妥当な目標であると感じていました。

また一方で個人的には去年の悔しさからどうしても自分たちの代でAリーグに昇格したいという思いも強く持っていました。結果的には後者の気持ちが勝り、今年の目標は昇格となりましたが、大事なことはこの私が個人的な後悔から言い出したことをチーム全体のマインドに落とし込むことだと思っています。今年の3回生以下はまだリーグ戦で3回以上負けたことがあります。そのため、一戦一戦リーグ戦で勝利するということがどれほど過酷な戦いであるかを実感している部員は多くないかもしれません。ただし、去年の結果から自分たちのやってきたことを信じて、全力を尽くせば強豪の私立大学相手にも十分戦えるということを確かにイメージできるという点では、平成から数えて今までで一番昇格が自分たちにとって実現可能な目標だと認識できるとも考えることができます。そして、チームが一丸となって昇格を目指し、身を粉にして戦えば必ず達成できるとなによりも私が一番信じています。

私たち現役一同は3か月という長く過酷なリーグ戦をチームで戦いぬくつもりです。OBの皆様方にはより一層のご声援をどうぞよろしくお願いいたします。

## ◆新入生紹介◆

### ～石田 祐子（洛南・MG）～

一回生マネージャー（京大、法）の石田祐子です。出身は地元の京都です。中高時代はほとんどスポーツをやっておらず、大学では、小学校の頃に習っていた空手をしたいと考えていましたが、ラグビー部の先輩に声をかけて頂き、弟がラグビーをやっていたことから興味を持ちました。迷っていると、高校生の時体育祭で応援団のマネージャーとしてチーム作りに参加し勝利を得たことの喜びを思い出し、大学でもチームを築くことがしてみたいという思いが膨らみ、練習を見学に行きました。すると、マネージャーの先輩方と選手の方が楽しそうにしていらっしゃる一方、練習になると真剣にラグビーに取り組むその雰囲気惹かれ、こんなチームの一員になりたいと強く思っ、入部を決めました。おかげさまで今、入部して本当に良かったと心から思っています。現在、私はアナライズを担当しており、四年後には分析を通して選手もマネージャーも一体となって一つのチームを築くことに加わりたいという夢があります。マネージャーとしてもラグビーに関わるものとしてもまだまだ未熟な私ですが、私にできる役割を一つ一つ果たしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



1 回生集合写真

### ～稲田匠（駒場東邦・WTB）～

法学部 1 回の稲田匠です。ポジションは、ウイングをやっています。僕は中高とサッカーをやっていて、ラグビーに関しては、全くの素人で、京大に合格してから、ラグビー部に入るとは思ってもいませんでしたが、新歓の時期にこの京大ラグビー部の楽しい雰囲気と熱意に心を惹かれ、入部しました。入部してもう 4 ヶ月が経ち、徐々に部の雰囲気には慣れてきたように感じますが、ラグビーの激しいぶつかり合いや、動きやサインの緻密さには、まだついていけない部分も多く、毎練習毎練習、なんとかついて行くのが精一杯な所もあります。先輩やコーチ、OB の方々の指導を仰ぎ、自分から積極的に練習に参加する姿勢がないと、ついていけないので、いつも前向きに、練習に取り組み、自分の得意なプレーを確立して行くことが、まず最初の目標です。4 年までにレギュラーを取れるよう日々の練習を頑張りたいと思います。

### ～上松 大也（大阪桐蔭・PR）～

大阪桐蔭高等学校出身の上松大也です。好きな事は睡眠をとる事です。

さて、自分は今年の春、京都大学に入学しました。自分は大学に入学したら何かしら運動をしようと思っていてどこで体を動かそうか迷っていた所、優しくて、面白い先輩に誘われラグビー部の新歓に行きました。ラグビー部には高校時代の同期が入部していたり、そして何よりも部の雰囲気の良さに魅了された事が決め手となり、京都大学ラグビー部に入部しました。当然不安もありましたが、練習中にこんな自分にも親身になって教えてくださる先輩方や些細な事でも自分にアドバイスをくれる 1 回生の仲間の存在によってこんな不安は消えました。自分はこんな素敵な人達に出会ってくれたラグビー部に入部して良かったと思います。

さて、今の自分は部にも馴染んで、辛い練習ではありますが、何とかやっています。これから 4 年間体を鍛えて、技術も磨いて、素敵な人達に出会ってくれたこのラグビー部に貢献できるように日々成長していきたいです。これからも宜しくお願いします。

### ～荻野 晃平（静岡・SO/CTB）～

こんにちは！ユニバとディズニーが大好き！荻野晃平です！ボックスに怪我人が多かった春、ぼくはラグビー部に入ってからすぐに春シーズンで試合に出させてもらったり、コンバージョンキックを任されたり、非常に濃い体験をさせていただきました。そして夏合宿では、高校時代も全くやったことのないウイングとして A チームで使っていただき、自分の長所であったスピードを認められた気がして、とても成果が得られた合宿でした。しかし、合宿最終日に足を怪我してしまい、現在はリーグ戦直前期であるにもかかわらず練習に参加できていない状況です。せっかく調子よかったのに！と悔しく煩わしい気持ちでいっぱいですが、万全の状態での復帰できるようにもう少しだけ我慢させていただきます…。この期間に上半身を鍛えまくって、復帰するころには先輩をハンドオフで吹き飛ばすほどの生き物を目指そうと思います。復帰前、復帰後も、チームの勝利のために自分の出来ることを精一杯やらさせていただきますので、まだまだ未熟ですがよろしくお願いします！

### ～久家 杏太（済済費・SH/SO）～

僕は父がラグビーの指導者だったこともあり、中学校からラグビーを始めました。ポジションは中学ではスクラムハーフを高校ではスタンドオフをしていました。どちらのポジションも試合を作っていく中でとても重要で頭を使うポジションです。試合を作るのは難しいですが、この 2 つのポジションでしかできない面白い部分であると思います。だから、僕は大学でもスクラムハーフとスタンドオフをしたいと考えています。僕はまだまだ体が細いので、まずは筋トレをして体を大きくすることに取り組んでいます。体を大きくして今まで自分があまりできていなかったラインブレイクやビッグタックルをしたいと考えています。高校では試合であまり勝つことができず、悔しい思いをしてきたので、大学では多くの試合に勝ちたいです。自分の得意な部分であるハンドリングにさらに磨きをかけてチームを勝利に導けるようなプレイヤーになれるように頑張ります。

### ～酒井 春野（フェリス女学院・MG）～

神奈川県フェリス女学院高等学校出身の酒井春野と申します。現在は京都大学経済学部在籍しています。

ところで、ラグビー部のマネージャーをやっていると伝えると、どうしてマネージャーなんかやろうと思ったの？と言われることが少なくありません。あまりプラスのイメージを持たれていないのかもしれませんが。

たしかに私たちマネージャーは決してグラウンドに立てないし、厳しい練習に苦しむ選手に代わって何かしてあげることもできません。自分の無力さが情けなく感じることも多くあります。それでも選

手の人たちがラグビーに専念できるよう練習や試合から日常に至るまで彼らを一番に支えることのできる存在であると今は考えています。誰でもできるが誰かがやらなければいけないことがマネージャーの仕事であります。チームの一員として勝利に貢献しようという意識を持って取り組むことこそが必要なのでしょう。まだまだ未熟者ではありますが、必ずやチームにとって不可欠な存在となれるよう努力は惜しまないつもりです。そして、いつか、私もチームの勝利に全力で泣き、喜べるようになります。胸を張って、私は京大ラグビー部に大学四年間を捧げたのだと言えるようになりたいのです。日々精進して参りますので宜しくお願いします。

#### ～笹井 亮志（膳所・FL）～

滋賀県膳所高校出身の笹井亮志といいます。ポジションはフランカーをやっています。

意気込みとしては、チームの勝利に貢献する選手になりたいと思っています。大学のラグビーは、プレイヤーの体が大きく、そのような相手と戦うので、まずは当たり負けない体を作ることを考えて、体重の増量や、筋トレに力を入れていきたいです。また、スキルの面では、自分の長所であるタックルに磨きをかけられるように、頑張っていきたいです。具体的には、ディフェンスで、自分が起点となってターンオーバーする機会を試合中に数々生み、ディフェンスからオフェンスに対して良い流れを作り、攻めのディフェンスが自分一人でもできるようになりたいです。個人だけでなく、集団の観点からは、試合中いくら体力がなくなっていようと、京大のオフェンスやディフェンスの規律を、考えることなく無意識で実行できるくらいに、落とし込めるように、リーグ戦の前の今の期間で、意識的に取り組んでいきたいです。

#### ～佐野川谷 知史（大阪星光・CTB）～

農学部地域環境工学科 1 回生の佐野川谷知史です。中学と高校の時は陸上競技部で長距離をしていました。小学校時代に少しラグビーをしていたこともあり、ラグビー部に入部しました。入部した当初は別メニューで先輩から基礎を教えていただきました。最近は練習にも一緒に参加していますがなかなか難しい部分もあり、試合に出てもわからないことだらけですがひとつひとつ学んでいきたいと思っています。体力があまりなく試合に出てもすぐに疲れてしまうので、しっかり走り込んでスタミナだけは誰にも負けないと言われるような選手になりたいと思います。また体がまだまだ細いのでウエイトトレーニングをたくさんして大きくなって、チームの力になっていけるよう頑張ります。

#### ～西澤 瑞乃（中京大中京・MG）～

1 回生マネージャーの西澤瑞乃です。立命館大学文学部、名古屋市の中京大中京高校出身です。私は高校生までバレーボールをしていましたが、大学で

はラグビーという自身にとって新しいスポーツに、マネージャーという形で関わることになりました。部のこともラグビーのことも初めて知ることばかりの毎日ですが、この京大ラグビー部は現役だけでなく OB や保護者の方々にもとても愛されている部活であることが、入部したばかりの私にもとても伝わり、そのような部の一員として今携わっていただけることに、嬉しく思います。チームが勝つために自分にできること、もっと言えば自分にしかできないことを少しでも多く見つけていくことが、チームの一員として「貢献する」ということなのではないかと、私は思います。形は違うけれど、私とプレイヤーと一緒に全力でラグビーに励んで、上を目指して、がむしゃらに走り続ける 4 年間にしていきたいです！

#### ～正岡 充（奈良学園・No.8）～

京都大学文学部 1 回正岡充です。出身校は奈良学園高校です。ポジションは No.8 をやっています。体力もフィジカルもまだまだ足りないですが、これから頑張ります。今僕は B チームにいますが、リーグ戦では A チームのプレーを見て多くのことを学びたいです。そして、いち早く A チームとして試合に出られるようにリーグ戦中も練習を頑張つてより上手くなれるように努力したいと思います。また、チームが A リーグに昇格できるようにしっかりとサポートしていきたいと思います。

#### ～宮崎 翔一（長崎西・FW）～

はじめまして。長崎県立長崎西高校から来ました宮崎翔一といいます。京都にきてしばらく経ちますが未だ長崎と関西との文化や言葉の違いに悩まされています。ラグビー部の友達から日々関西人とは何かということを教えてもらっていますがどうも自分は関西人にはなれそうにありません。私生活での目標は、卒部する四年後、関西弁をしゃべる自分を全く想像することができませんが、せめて友達が仕掛けてくるボケに的確なツッコミを入れ、日々の生活の中でそれとなくボケられるような人になりたいです。ラグビーにおいての目標は、早く戦力になって試合で活躍することです。自分は高校からラグビーをはじめたものの、人数も足らずあまりラグビーというものを知らずに高校を卒業し、大学に入って本格的にラグビーをしたいと思い入部しました。体も小さくスキルやラグビーの知識も先輩と比べるとまだまだですが、まずは体を強くしてラグビーの勉強もして早く試合で活躍できるようになりたいです。これから応援よろしくおねがいします。

#### ～宮原 正重（灘・CTB）～

灘高校出身の宮原正重です。高校からラグビーを始めて、今年でラグビーは四年目になります。ポジションはセンターです。あたって相手を蹴散らすようなパワー、スペースがある時には華麗に相手を抜き去るラン、ビッグチャンスを作り出すようなパス

の三拍子が備わったようなセンターを目指しています。

僕の現在の目標は 2 回生になるときに A チームに食いこめるようなプレイヤーになることです。入部から今までは怪我が多く、ラグビーをして上達する機会があまりなかったのですが、この秋シーズンから練習、試合を通して力をつけたいと思っています。

僕たちの代でちょうど京大ラグビー部が 100 周年を迎えます。オックスフォード大学との交流戦の話が持ち上がるなど、大きな節目となる代であるわけですが、僕たち一回生にはそれぞれがいろんな長所を持つ素晴らしいメンバーが揃っています。きっと偉大なチームになると確信しているので、僕はその一員となれるように 4 年間必死にラグビーと向き合って、それを楽しんでいきたいです。

どうぞ応援よろしくお願いします。

### ～村田 万里子（長田・MG）～

1 回生マネージャーの村田万里子です。兵庫県立長田高校出身で、経済学部部に所属しています。母校にラグビー部はありませんが、受験期にどういう訳かラグビーに魅了されたことがきっかけで入部しました。近頃ますますラグビー愛が加速し、前期のとある講義で、京都とラグビーの繋がりについて 4 千字超の期末レポートを書いてしまいました。そんな私ですが、晴れの日も雨の日もグラウンドを懸命に駆け抜ける選手達のように、どんな時もひたむきに選手のサポートができるマネージャーでありたいと思っています。初めての秋リーグを迎えるにあたって、まだ分からないことが多々あり、不安もありますが、チームの勝利に貢献できるよう責任をもって役割を果たして参ります。また、事務として主に Facebook の更新を担当していますので、皆様に試合情報や練習風景等をいち早くお知らせできればと思っております。今後ともご支援ご声援どうぞよろしくお願い致します！

### ～横山 ルイ（静岡・PR/LO/NO.8）～

工学部地球工学科 1 回生の横山ルイです。この度四回目の受験でやっと京大に合格しました、3 浪待です。静岡県の静岡高校出身です。シズコーという愛称が付けられていて、中には知っている人がいるかもしれませんが野球が強くて甲子園大会にも何度も出場しています。今年の夏の甲子園大会にも出場しました。それはさておき、高校 1 年生から 3 年の 6 月までラグビーをしていました。中学ではパソコン部に所属していました。なぜこってこての文化部からこってこての運動部に入ったかというと、父が早稲田大学出身で、ラグビーのファンであり、その影響で僕は小さい頃からテレビでラグビーの早慶戦を見ていて、ラグビーに関心があったからです。自己紹介はこの程度にして次はリーグ戦の意気

込みです。僕の強みはズバリ言うと重さです。それを活かせるのはスクラムです。高校では 1、5 メートルしか押せないのであり注目されませんが、大学からは制限がなくなります。押し放題、押され放題です。つまりそこで勝負が決まります。はっきり言って、スクラムで試合の勝敗が決まります。そんな重要なスクラムを自分のものにしたい、誰よりも上手く強く押したい、そういう気持ちでリーグ戦に臨んでいきたいです。皆さんの応援、よろしくお願いします。

### ～和氣 宏典（東海・PR）～

工学部工業化学科 1 回生の和氣宏典です。1997 年 6 月 30 日に兵庫県明石市で生まれ、小中高浪人時は愛知県名古屋市で暮らしました。血液型は B 型です。6 つ上の姉と 3 つ上の姉がいます。好きな食べ物はスパゲッティと赤身の牛肉です。趣味は特にありませんが、強いていうならば筋トレです。浪人中に筋トレを始め、家の近くの市民スポーツセンターで週 2 回 BIG3 中心に筋トレしていました。ラグビーは高校から始めましたが自分の通っていた東海高校は部員が不足していたので単独で 15 人揃うことはなく他校と合同で試合にでていました。15 人制の試合で勝ったことは 1 度もなく、高校時代ラグビーをやっていると思ったことはほとんどなかったです。なのでラグビーのことをまだ全然分かっていないし京大ラグビー部に部員が 15 人以上いるだけでとてもうれしいです。ポジションは高校ではナンバーエイトをやっていましたが大学に入ってプロップを始めました。プロップは難しいし辛いですが、やりがいのあるポジションだと思うので身体を大きくして 4 年間で成長してみせます。

### ～渡邊 将太（浦和・HO）～

僕は高校生の時からずっと HO をやっています。スクラムを強みにする京大ですが、僕はまだまだサイズ、パワー共に不足しているので、スクラム強化に励む日々を送っています。増量、筋トレ、走り込みとキツイことも多いですが、強くなりたい一心で頑張っています。

春シーズンはほとんど全てのゲームに出場させていただきましたが、ラインアウトとスクラムではチームの足を引っ張ることが多くなってしまい、悔しい思いもたくさんしました。しかし今、僕の中では、確実な手応えを感じ始めています。リーグ戦では、絶対ラインアウトを成功させて、スクラムも押して、チームの目標の一つであるセットプレーの安定を達成させます。その上で、自分の強みであるアタックで特にハードワークして、チームを牽引したいと思います。大学に入ってから白星に飢えているので、初戦から勝利欲を爆発させ、皆で勝って泣きたいです！

◆秋シーズンスケジュール◆

- 9月 8日(日) リーグ戦1次リーグ第1節  
vs. 大阪国際大学 11:00 KO @大阪国際大学 G
- 9月15日(日) リーグ戦1次リーグ第2節  
vs. 大阪産業大学 12:00 KO @宇治 G
- 9月22日(日) 定期戦  
vs. 同志社大学 13:00 KO @同志社京田辺 G
- 10月 6日(日) リーグ戦1次リーグ第3節  
vs. 大阪教育大学 14:00 KO @大阪国際大学 G
- 10月20日(日) リーグ戦1次リーグ第4節  
vs. 大阪学院大学 14:00 KO @大阪経済大 G
- 10月27日(日) リーグ戦1次リーグ第5節  
vs. 龍谷大学 13:00 KO @宇治 G
- 11月 3日(日) 練習試合  
vs. 京都大学医学部 12:00 KO @宇治 G
- 11月10日(日) リーグ戦2次リーグ第1節
- 11月17日(日) リーグ戦2次リーグ第2節
- 11月24日(日) リーグ戦2次リーグ第3節

◆B リーグ再編成のお知らせ◆

今年度から B リーグは 12 チームとなり (※昨年度までは 10 チーム)、6 チームずつの B1、B2 グループが編成されます。各グループ内で全 5 節の総当たり 1 回戦(1 次リーグ)を行い、

- B1・B2 の 1,2 位、計 4 チームによる上位グループ
- B1・B2 の 3,4 位、計 4 チームによる中位グループ
- B1・B2 の 5,6 位、計 4 チームによる下位グループ

による 2 次リーグによって順位を決定します。

京大は B2 グループに所属

| B1      | B2     |
|---------|--------|
| 関西大学    | 龍谷大学   |
| 追手門学院大学 | 京都大学   |
| 花園大学    | 大阪教育大学 |
| 神戸大学    | 大阪産業大学 |
| 帝塚山大学   | 大阪国際大学 |
| 大阪経済大学  | 大阪学院大学 |

◆試合動画配信について◆

今シーズンより映像分析ソフト「SPLYZA Teams」を導入し、試合映像等を監督団・部員で共有して活用しております。このソフト導入には年間 13 万円の利用料が必要となります。

これまで多くの会員からリーグ戦や定期戦の映像を Youtube 等で共有できないかとのお問い合わせをいただいておりますが、対戦相手チームの目に万が一触れることを懸念し、誰でもアクセスできる Youtube にはアップしていませんでした。今回導入した分析ソフトは閲覧者を管理登録することから、部外者の目に触れることはありません。

今回、執行幹事会で協議及び評議員会での承認を経て、OB (および将来的には現役の保護者) の方で 3,000 円/年の閲覧登録料をお支払いいただいた方にはこの映像ソフトを各自の PC、スマホ、タブレット等で閲覧いただけるようにすることといたしました。なお、年間ソフト利用料 13 万円を超えた閲覧登録料につきましては現役強化費に充てさせていただく予定です。

閲覧登録を希望される方は、以下のフォームに記載の上、4 回生鈴木君 ( [0706kento@gmail.com](mailto:0706kento@gmail.com) ) 宛にメールにてお申し込み願います。折り返し、登録用の URL を鈴木君より返信させていただきます。また、閲覧登録料 (3,000 円/年) を以下の口座に振り込み願います。

三井住友銀行 堂島支店  
普通 0409696  
京大ラグビー 寄付等会計 峯本耕治

-----申し込みフォーム-----  
【映像分析ソフトの閲覧登録希望】  
氏名 :  
卒業年次 :  
メールアドレス :  
-----

◆春シーズン定期戦試合結果◆

- 4月28日(日) (於宝ヶ池 G)  
●京大 15-92 立命館大学
- 5月19日(日) (於宇治 G)  
●京大 19-26 成城大学
- 6月 9日(日) (於防衛大学校 G)  
●京大 38-42 防衛大学校
- 6月15日(土) (於宇治 G)  
●京大 17-55 慶應義塾大学
- 6月23日(日) (於大阪ガス今津 G)  
●京大 21-65 関西学院大学

◆春シーズン練習試合結果◆

- 3月21日(木) (於宇治 G)  
●京大 43-50 北海道大学
- 3月31日(日) (於宇治 G)  
○京大 36-26 大阪大学
- 5月25日(土) (於大阪国際大学 G)  
●京大 B 5-66 大阪国際大学 B
- 6月 2日(日) (於宇治 G)  
○京大 47-24 大阪大学医学部
- 6月16日(日) (於宇治 G)  
●京大 B 0-48 帝塚山大学 B

## ◆夏合宿試合結果◆

8月10日（土）（於津別町ふれあい公園）

●京大 5－98 名城大学

8月13日（火）（於モイワスポーツワールド G）

●京大 29－113 山梨学院大学

## ◆新入生お食事会の報告◆

水田会長のご提案により、春シーズンが終了した直後の6月30日、新入部員へ『ようこそ京都大学ラグビーフットボールクラブへ』の意を表して食事会が開催されました。美味しいものを食べながら京大ラグビー部についてももっと詳しく知ってもらい、部への誇りと愛着を深めてもらおうという初の試みです。

当日は四条大橋の東華菜園へ約40名が集まり、KIUR.F.C.の歴史を振り返り、存在意義や理念を再確認しました。そして乾杯後は世代を超えて交流しました。  
＜追伸＞

「6月に仲間として歓迎した新入生のみなさんが、そろって充実した大学生活をおくり、ラグビー部の一員として成長されている様子、大変頼もしく思います。現役・OB 一丸となってチームを盛り上げて行きましょう。」  
（水田）



## ◆ SPONSOR ◆



京都大学ラグビー部の現役部員に対し、コメの流通大手の(株)神明様より精米2トン/年を無償で供与頂いています。栄養面の補強による体力強化のみならず、浮いた予算でトレーニング器具等の購入が可能となり、新チーム強化の大きな支援となっています。

## ◆会費納入のお願い◆

既に納入いただいている会員の皆様、ありがとうございました。未納の方は以下の口座に振り込み願います。

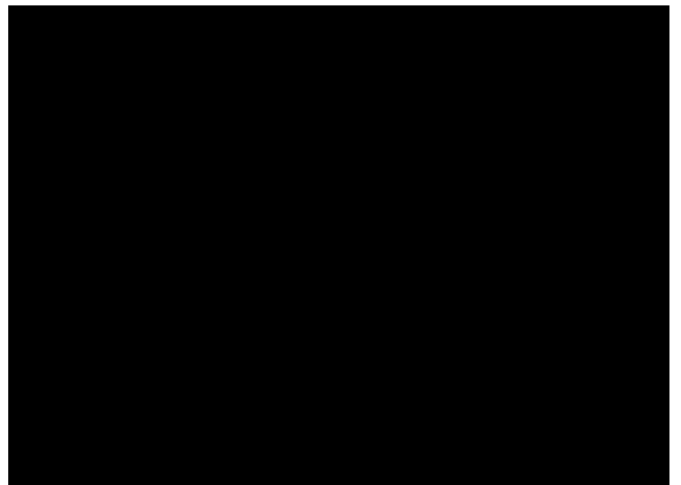
三井住友銀行 堂島支店 普通 261989  
京都大学ラグビーフットボールクラブ 会計  
峯本耕治

また、年会費納入に加え更なるご支援をいただける方は、以下の「京大ラグビー部活動支援基金（京都大学基金内に設置）」へのご寄付につきましてもご検討いただきたくお願い申し上げます。ウェブサイトから簡単に申し込みができます（以下サイトを開き、「寄付する」ボタンをクリックし、必要事項を入力して支払い方法を選択するだけです）。銀行振込に加え、クレジットカードでの支払いも可能です。また税制上の優遇措置（所得税、地方税、相続税の控除）の対象となっています。

京大ラグビー部活動支援基金：

[www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/](http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/rugby/)

## ◆ 連絡先等 ◆



## ◆ 編集部より ◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。またこんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただきたく思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

総務委員長 岡本大和 (H23)

総務委員 塩尻大也 (H28)

総務委員 石田充 (H30)

総務委員 古元泰地 (H31)

## ◆フォトギャラリー・夏合宿◆

【8月7日 合宿開始】



【8月10日 名城大学練習試合】



【8月11日 法政大学合同練習】



【8月13日 合宿終了】





# クラブ便り

令和元年度 第3号

シーズン総括号 2020.1.25

京都大学ラグビーフットボールクラブ

## ◆監督によるシーズン統括◆

～溝口正人監督（H02・神戸）～

例年どおり東大との定期戦をもちまして、特に大きな事故も無く今シーズンを無事終了出来ましたことを報告致します。会員のみなさまには、この一年間温かい励ましのお言葉、ご声援、そしてグラウンド内外における数多くのご支援を頂戴し誠にありがとうございました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて成績の方ですが、Bリーグ12チーム中6位と、残念ながら今期の目標としていた『Aリーグ昇格』は達成できませんでした。高い目標を掲げ、自らに厳しいハードワークを課して頑張ってくれた石田組のみんなをそこに導いてあげられなかったことは、監督としての力の無さを痛感したシーズンでした。具体的には、年間のチームづくりの管理、主力選手の怪我への対応等をもっと上手くもっていったあげられなかったことが私自身の反省点です。

多くの卒業生を出した翌年の春シーズンのチームづくりの難しさ、新しいリーグ体制やRWCの影響による変則スケジュールでのピークのもっていき方等は事前にもっと考え準備できたのではないかと思いますし、主力選手が怪我で長期離脱した際のモチベーションづくりや控え選手の育成等に関しては自分自身の考えの甘さに多に気付かされました。本当に石田組のみんなには、ベストな状態、ベストメンバーでリーグ戦を戦わせてあげたかったし、その姿を見てみたかったなあと思うばかりです。

それでは、秋シーズンを振り返ってみます。春シーズン中はなかなか結果が出ていませんでしたが、例年より早く行った北見合宿、その後の宇治での練習と、9月8日のリーグ戦開幕に照準を合わせ、いい準備ができたと思います。結果、初戦の大阪国際大学には危なげなく勝利することができました。試合後の部員達のコメントを見てもわかる通り、なかなか結果が出ない中みなが不安を抱いて頑張ってきており、このゲームで自分たちのやってきたことに対する自信が芽生えた価値ある勝利だったと思います。しかし同時に、BKの中心として活躍してくれていた桑田くんが骨折で今期絶望との診断。BKで副将の安部くんが春にアキレス腱断裂でリーグ戦終盤に復帰できるかどうかという中、この怪我は痛かったですね。戦力的にもそうですが、何よりチーム内になんとも言えない動揺が生まれ、その後二試合に連敗。最終的に一次リーグは2勝3敗で3位となり、リーグ全体の5～8位を争う二次リーグで戦うこととなりました。この時点で今期目標の『Aリーグ昇格』の夢は途絶えてしまったわけですが、石

田主将と4回生を中心にモチベーションを切らすことなく、『一戦一戦強くなろう！ラグビーを楽しもう！』（※裏の意味 ラグビーは勝たなきゃ楽しくない）を合言葉に最後までよく頑張ってくれたと思います。

最終的に二次リーグを終えた結果は2勝1分で得失点差で6位となりました。今期はBリーグ5位のチームが近畿の代表として全国地区対抗ラグビーフットボール大会へ出場する事になっていましたので、一昨年と同じく当該大会への出場を逃してしまいました。

その後は九大、東大定期戦に連勝。最後の東大戦では、A、B両チームとも勝利することができ、良い形でシーズンを終わることができたと思います。

この一年を振り返ってみると、『Aリーグ昇格』を目指し、それに果敢に挑んでくれた石田主将と4回生達は、令和という新しい時代の京都大学ラグビー部の目指すべき姿を確実に示してくれたように思います。

今のBリーグに楽をして勝てるチームはありませんが、絶対に勝てないチームもありません。ただ、「Aリーグ昇格は？」という問い掛けに対しては、「まだまだ…」という答えしかできないのが現実だと思います。では、いったい何が足りないのか？どうすればいいのか？

それについては、現役部員達、コーチ陣、そしてOBの方々とじっくり話し合い探していきたいと思います。今、私個人が考えるキーワードは『本気度』です。来期もご声援の程よろしくお願い致します。

## ◆主将によるシーズン統括◆

～石田貴一 主将（法学部・本郷）～



今シーズンを振り返ると、まずはとても厳しい春夏を思い出します。BKの主力が怪我で抜け、FWでは前年から残ったスターティングが3人だけという人的欠損もあり、エリアやアタックの戦術を一から考え直す必要がありました。どれだけスケジュールを立てて練習

をしても、それ通りに進むことはなく、リスキを繰り返しながら遅々として進まないチーム作りに焦りを感じていたことを覚えています。また何よりも厳しかったのは負けが立て込んだこと自体です。定期戦で同格の相手にも勝てず、チームの雰囲気は良くありませんでした。ほとんどの試合に勝利していた昨年度と比べると落差は大きく、1年生にとってみれば京大でのラ

グビーが面白くないものに見えたかもしれません。

しかし、今から思えばチームが得ていたものも大きかったです。有望な1年生が入部してくれたことに加えて、普段出場機会に恵まれなかった下級生がチャンスを得ることで、チーム力は高まっていきました。4回生と2回生のBKが怪我でほとんど参加できないために、今まで試合に出ることの少なかった3回生のBKが大きく成長してくれて、FWでも1年生が入部直後から献身的な働きをしてくれたおかげで、チーム全体の戦術理解度やスキルが向上し、練習のクオリティが良くなっていった気がします。

さらに、昨年はミーティングをどうやったらもっと実りあるものにできるかを考えていました。そう言った意味でも、機会を設けるだけでは話し始めなかった下級生たちが、春シーズンが深まるにつれて自ら発信してくれるようになってとても頼もしく思っていました。ぜひ来年は伸びに伸びたミーティングの時間を短縮して効率化できるように、4回生には工夫を施していただきたいです。

そうして長い春夏を乗り切って、リーグ戦へとチームは突入しました。リーグ戦初戦の大阪国際大戦は昇格したばかりのチームに絶対に負けられないというプレッシャーもありながら、早くこのチームで勝利を挙げたいという想いを抱いていて、そういった中で手に入れた初勝利は格別でした。また、最終戦の大阪経済大学戦も強く記憶に残っています。私のラグビー人生の中でノータイムでペナルティゴールをいれて勝った試合は初めてです。位置がよかったので、即決でペナルティゴールを選んでしまいましたが、キッカーである寺島はさぞ緊張したことでしょう。

シーズンの締めくくりとして、リーグ戦で勝ち負けを繰り返しながらも、勝つことの喜びを思い出し、主力が復帰した私たちが、最後に東大と九大に勝って終わったことは本当に報われた思いでした。特に今年の九州大学はアタックの完成度が高く、ディフェンスのインテンシティが素晴らしいチームでしたし、東京大学もラインアウトやエリアにおいて後手に回り、下馬評以上の力を感じました。そう言ったチームにロスコアのゲーム展開を守りきり、九州大学に至っては最後の最後にトライを取って勝てたことは、春からは考えられない成長でした。さらに、個人的には溝上組を負けて引退させてしまったことがとても心残りだったので、その代の副キャプテンだった小川さんと東大に駒場で勝利できたことがとても嬉しく、小川さんのおかげで、なんだか4年間全て東大には勝った気持ちでいます。

最後に、わがままばかりだった私についてきてくれた同期や後輩、もう一度チームに戻ってきてくれて一緒にプレーしてくれた小川さんと森本さん、新し物好きで飽き性の私のわがままに付き合っていたいただいた監督団とそれをサポートしていただいたOBの皆さまに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## ◆引退の挨拶◆

### ～安部武 (CTB, 大分舞鶴)～



先日、京都大学ラグビー部を引退しました。4年間存分にラグビーに打ち込み、こうして晴れやかな気持ちで引退の時を迎えられたことを幸せに思います。まずは誰よりも多くの心配と迷惑をかけたにもかかわらず、優しく応援してくれた両親に深く感謝いたします。

振り返ってみると、4年間の中でも最上級生として過ごしたこの1年間はやはり特別な時間だったと思います。自分たちで目標を考え、スローガンを考え、チームの在り方を考え、そうやってみんなで協力して作ってきたチームには、特別な愛着がわきました。春先に負ったケガで半年ほど離脱しましたが、プレーできた期間は本当に楽しかったです。また、学生のことを理解し、尊重してくれた監督団や、私たちの試合を楽しみにしてくださった先輩方の存在も、非常に有り難いものだと感じました。1年間本当にありがとうございました。

私たちはシーズンに入る前、自分たちがラグビーをする動機をはっきりと言語化しました。それは「勝利の喜びを味わうため」です。死力を尽くした戦いの末に勝利をもぎとった瞬間の喜びは言葉に表すことができないほど素晴らしいものです。そしてその喜びは、相手が強ければ強いほど大きくなると思われます。このことは1年間を通して深くチームに浸透したと感じています。代替わりを経ても、京都大学ラグビー部の目指すものは変わらないと思います。来年度以降、後輩たちがどんなラグビーを見せてくれるのか、楽しみにしながら、できる限りの支援を行いたいと思います。

中学校に入学して以来の10年間、ラグビーという素晴らしいスポーツに全力で打ち込めたことは、私の生き方さえも左右する大きな出来事でした。これまでラグビーを通じて関わってきたすべての皆様に感謝を申し上げて、引退の挨拶と致します。

### ～荻野 由佳 (MG, 米原)～



マネージャーをしております。荻野由佳です。私は4年間組織体制が変化する中で本当にいろいろな仕事に関わらせていただきました。

広報やケガ管理、また試合の分析をしたり様々な角度からラグビーと深く関わることができて本当に充実した4年間を過ごすことができました。練習や試合の運営を通じて、私たちが整った環境で部活動をできているのは多大なOB皆様方のおかげだと何度も痛感しました。心から

感謝申し上げます。ありがとうございました。

そしてラグビーを大好きなスポーツにさせてくれた同期、先輩、後輩にも深く感謝し、これからは京都大学ラグビー部ファンとしてこの組織を応援していきたいと思います。4年間ありがとうございました。

#### ～奥山 一慶 (FL, 茨木)～



今年度会計を務めました奥山一慶と申します。会計という立場上、身に染みて感じたことは、OBの皆様から日頃より多大なご支援とご協力を賜っていたことです。厚く御礼申し上げます。これからは私もOBとして現役の助けとなるよう支援したいと思います。

さて、先日の東大戦で長い長い現役生活に終止符を打ち、現在は筋トレや食トレのないオフを満喫しているところです。しかしふとYouTubeを開けば花園や大学選手権のハイライトを見ている自分に、改めてラグビーが好きなんだと気づかされています。思えば私がラグビー部に入部したのも結局のところそこに行き着きます。違うスポーツがしてみたいと一度はアメフト部に入部しました。しかしそこで感じたことは、ラグビーがいかに自由なスポーツであるかということでした。ボールを持てば誰もが主役で、そこからは自分次第。相手を吹き飛ばすもよし、華麗なステップでかわすのもよし。またディフェンスでは本能のまま何にも縛られずボールを持つ相手と闘う。このような自由さが好きで、やっぱりラグビーがしたいと思いラグビー部への入部を決意しました。

入部してからのラグビー部での練習は正直、ギャングよりきついやん、と思いましたが、それでもラグビーの自由さを目一杯楽しむことができました。そしてそれは遅れて入部した私を温かく迎え入れてくれた仲間達のおかげでもあります。同期のみんなはもちろんのこと、先輩や後輩のおかげでこんなにも楽しいラグビーをすることができました。本当に感謝しています。今後も何らかの形でラグビーに関わっていきたいと思っています。3年間、ありがとうございました。

#### ～音成 兼光 (SH, 明善)～



東大戦をもって小3から続けてきたラグビー人生も一区切りついたわけですが、痛くてしんどいラグビーというスポーツをよくここまで続けたなと自分でも思います。それはやはり、ラグビーの理解度が中学・高校・大学と進むにつれてより高まり、面白いと感じていたからこそ続けてきたと思うのですが、そこにはかけがえない同期の存在も必ずあったと感じています。

今でも忘れられない1回生の頃、試合後のクラブハウスに散乱した道具やごみを付けながら「これは勝てるチームじゃない。俺らが4回生の時には勝てるチームにしてAリーグに行こう。」と皆で話したあの日、絶対に強くなりたいと思ったし、ならなくてはならないとも思いました。皆がこの事を覚えているかは分かりませんが、私はしんどい時にいつもこの日を思い出し、頑張る同期に置いて行かれぬよう奮い立たせていました。練習の中だけでなく、2回生の夏に大きいケガをしてプレーヤーを辞めてしまおうかと考えた時も、なかなかスターティングに選ばれずに悩んでいた時も、一番近くで話を聞いて支えてくれたのは同期でした。私の目標はいつも、そんな同期とスターティングメンバーとしてプレーする事であり、同じピッチでプレーできれば嬉しく、認められたいとも思い、ハードな練習に取り組めていたと思います。チームの一員としてプレーしている以上、皆に必要とされたいと思うのは当然ですが、それに対してチームに必要とされていると感じるのはとても難しいことです。リザーブばかりで試合に出してもらえない選手や、Bチームにしか選ばれない選手は沢山います。そういった状況にあると、メンバーが発表される度に自分の力量のなさを痛感し、落胆してしまうのですが、慣れとは恐ろしいもので、それが続くとうるせ上がれないからといった考えが浮かんでしまうこともあります。そういう時こそ、頑張っている同期がいれば自分も頑張れるし、その逆もまたそうであるという事を忘れずに、努力し続けて欲しいなと思います。チームに必要なのは才能だけではなく、チームのために仲間のために頑張れる人であり、あとは、自分の目標に向けてどれだけぶれずに進めるかが何事に関しても肝要なのだと思います。

この4年間で、誰よりも頼もしく、尊敬し、困ったときにはいつでも助けてくれた同期を持てたことは私の誇りであり、一生の宝です。ありがとう。

#### ～草野 凱史 (MG, 九州学院)～



4年間ありがとうございました。京大ラグビー部に入部してから、もう4年の月日が流れたと思うと、大学生活もあっという間だったと感じます。この4年間の思い返してみれば、ラグビー部と過ごした時間の多さに驚かされます。シーズン中にはもちろん週5で会っていましたが、オフ中にも一緒に遊んだり旅行に行ったりと、部活動の時間だけでなく楽しい思い出もこの部活のメンバーと作ることが出来て、本当に良かったです。改めてこの部活が、部活の先輩後輩が、そしてなによりも同期が大好きだなと感じました。そして、そのような部活の一員として過ごさせていただいたことを誇りに思います。

僕は今までバスケやバレーボールなどの体育館競技

をしていたので、ラグビーを経験したことはなかったのですが、毎日練習を見たり試合を応援したりするうちに、ラグビーという競技は本当に素晴らしい競技であると教えられました。僕は、ラグビーという競技は「気持ちを 100%表現できるスポーツ」だと思っています。勝ちたいという気持ちや、負けたくないという気持ちが、やがて選手の気迫や原動力となり、そして迫り来る相手へと立ち向かう。その気持ちは見ている側でさえも熱くさせます。そのようなスポーツは他にないのではないかと思います。スタッフなので試合に出ることはありませんが、それでも勝ったらもちろん嬉しいですし、負けた時はとても悔しい気持ちになりました。今後、ラグビーという競技に関わることがあるかは分かりませんが、機会があれば是非関わっていただけたらと思います。

最後になりましたが、OBの方々には会費やふるさと納税、カレーの寄付などたくさん助けられました。この場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。来年のチームとOBの皆様の、今後のご活躍をお祈りします。

#### ～桑田 智史 (SO/CTB, 大手前)～



僕は小学生からラグビーをしてきましたが、この4年間で1番ラグビーに真剣に取り組む、学び続けた時間でした。ラグビーのことをより好きになり、より楽しくプレーできるようになりました。そして何よりも、ラグビー面はもちろん、人間的にも尊敬できる、同期たちの存在が僕をそうさせてくれたと思います。

このような文章を書く機会を与えてくださりありがとうございます。僕は後輩たちに向けて、僕が特に1回生の頃に感じたことを書こうと思います。

1回生の頃、大学レベルのコンタクトは激しく、フィットネス面でも遅れを取り、毎日がついていくので精一杯。SOのはずなのに晴れの日でもSHのパスを胸でキャッチしてしまうほどでした。そんな僕ですが、チームに怪我が相次ぎリーグ最終戦の神大戦に10番を背負うことに。5-6、1点ビハインドで迎えたラストプレー、覚えている方もいるとは思いますが、50フェイズほどピックで持ち込みゴール前まで迫りました。あのシーンは心が震えた、感動したと言ってくくださる方もいたのですが、この時僕の心の中では、絶対自分にボールが回ってこないで欲しい、そう本気で思いました。自分に自信が全くなく、ミスすることをただただ恐れ、ボールを呼ぶ声が出せませんでした。結果その一連の攻撃で一度もボールをもらうことなく、試合が終わりました。そんな試合の中でも僕なんかよりもチームの一員、いや中心選手として試合に出ていた同期たち。負けたこともそうですが、同期たちとの力の差、精神面での差を感じ自分の無力さを痛感しました。

この経験が自分を強くしてくれたと思います。1日でも早く、胸を張って京大の代表として試合に出たい。それだけでなく、他の同期たちのように頼られる存在になりたい。そして、同じような拮抗した場面がきたら、自分がどうにかしてやると思えるような選手になりたい。そう思うようになり、よりラグビーについて学び、考え、練習するようになりました。

そういった思いが実を結んだのか、2回生からは10番として出場することができ、3回生では京大の10番として自信を持ってプレーできるようにまでなりました。4回生では監督団やチームメイトからチームを引っ張る立場として期待されていると感じ、本当に嬉しく思いました。ですが、今シーズン怪我が相次ぎ、リーグ戦に至っては初戦の30分のみしか出場できず、その期待に応えられなかったことは残念で仕方ありません。

これを読んでくれた後輩たちには、自分の考え方、努力次第でラグビーはどんどん上手くなれること、お互いに高め合い、より高みを目指せる環境がこの京大ラグビー部にはあることを感じて欲しいです。そして、僕は去年の無念を晴らす気持ちで今年のチームに関わっていきと思うので、一緒に高みを目指して頑張りたいです。

最後になりましたが、監督団はもちろん、チームメイト、OBの皆様、保護者の方々に支えられて4年間ラグビーをすることができ、幸せでした。本当にありがとうございました。

#### ～小粥 康平 (WTB, 堀川)～



4年前のラグビーワールドカップの日本代表の奮闘ぶりに触発されて京都大学体育会ラグビー部に入部し、約4年が経ちました。ラグビー部のおかげで、非常に濃密な4年をおくらせていただきました。

振り返ってみれば、僕の同期選手はスタープレーヤーばかりで、普通の学校なら一緒にプレーをさせてもらうこともできないようなすごい選手ばかりでした。そんな中、中学でラグビーをやめた自分にとって大学ラグビーのフィジカルレベルはとても高く、入ってすぐの頃はついていけないかもしれないと思いました。それでも、皆と一緒に強くなりたいという思いを以て4年間努力を続けて本当によかったと感じています。プレーヤーとしては未熟で、試合に出場する機会は少なかったですが、チームが壁にあたって悩んだこと、新しい試みが上手くいって喜んだこと、そして何より勝利の喜びをこのチームの皆と分かち合えたことは一生の宝です。

僕たちは、ひとまず最前線を去り引退ということになりますが、今年打ち立てた目標は京大ラグビー部を10年後、100年後に日本一のチームにすることで

す。そのために多くのことを残したと思います。今後は、現役の後輩の皆も、これから後輩になるまだ見ぬ選手も、僕が4年お世話になったラグビー部で大きくなってくれることを祈ります。祈るばかりではなんなのでいい環境でラグビーができるよう、できることなら喜んで協力します。

最後になりましたが、監督団、OBの皆様、先輩後輩、多くの人の尽力なくしてプレーはできなかったと改めて感謝の思いを表明し、挨拶を終えさせていただきます。4年間本当にありがとうございました。

#### ～珠玖 実里 (MG, 京都成章)～



新歓をしてもらい入部宣言をしてからの4年間は本当にあっという間で、色々なことがあり、ラグビー部では悔しい思いも嬉しい思いもたくさんしたと感じます。初めは高校の時に見たラグビーがカッコ良くてこのスポーツに関わって見たいという思いだけで入部し

ました。入部した頃はスタッフの数も少なく、夏は暑しいし、水のカゴは重たいし、足にカゴが当たって青タンもできるしめげそうな気持ちでした。そして、趣味として続けようと思っていた習い事を、大学生でも頑張りたい、コンクールに出たいと思うようになり、部活との両立は大変でした。コンクール前だとなかなか練習にも参加できず、頑張っ部活に来ているチームメイトに申し訳ない気持ちや、京大ラグビー部における私の存在意義に悩んだこと、自分のやりたいことを優先したい気持ちが交差する状態で、正直やめようかと真剣に考えた時期もありました。しかし、学年が上がるごとに任される仕事の責任も増え、先輩やOBさんにご迷惑をおかけすることもありましたが、部活での自分の役目を見つけるとともに、充実した部活動となりました。すべて同期や先輩、後輩、監督団、OBの皆様が支えてくれたおかげだと思っています。

この京大ラグビーでスタッフとして活動できたことをとても誇りに思います。これからもラグビー部での出会いと経験を大切にしていきたいです。4年間たくさんのご支援、ご声援ありがとうございました。またいつかどこかで皆様とお会いできたら嬉しいです。

#### ～鈴木 賢人 (No.8, 函館ラサール)～



降格してしまった1年目、Cリーグを勝ち上がり昇格した2年目、平成最高の成績を残した3年目、そしてBリーグ中位に沈んだ4年目。この4年間とてもたくさんの経験をさせてもらいました。思えば辛いことばかりでしたが、その中で私のラグビーへの原動力

になっていたのは試合に勝ったときの一瞬の喜びだ

ったように思います。入部したころは自分がゲインしたりトライをすることに面白さを感じていました。しかし、いつしか絶対に落とせない試合の独特な緊張感、そして自分たちより強い相手に勝った時の喜びがそれを上回っていました。特に大阪大学との入れ替え戦、昨年の追手門学院大学、花園大学、今年の大阪国際大学に勝利した時の、これがラグビーをしている理由なんだと思わせてくれるほどの激しい喜びはこれからもずっと忘れることはないと思います。この原動力があったからこそ4年間ウエイト、フィットネス、コンタクト、厳しい試合などを乗り越えられました。

今現役の皆には、それぞれ違う原動力があるかもしれないし、自分にはないという人もいるかもしれない。どんなものであっても、チームのために最大の熱量を生み出せる原動力を見つけて、それを燃料にしてがむしゃらに努力してほしいと願っているし、それは絶対にかげがえのない経験になると思います。

最後になりましたが、監督団、OBの方々、保護者の方々、多大なるご支援ありがとうございました。これからはOBになりますが、少しでも後輩たちの力になれるよう尽力します。4年間本当にありがとうございました。

#### ～寺島康平 (FB・浦和)～



振り返ってみればあっという間の4年間でした。ラグビー部に入る気はなく入学したものの、気付いたら宇治の遠さを嘆きつつ練習に励んでいました。ラグビー部に入部して一番驚いたことは、常時指導者がいるわけではなく、練習中に怒られたりしないことでした。大学ラ

グビーとはこういうものなのかと思しながら、学生主体で自由に練習し、戦術戦略を組み立てていくのが、とても面白いと思いました。しかし、自由だからといって楽なことばかりしては強くなりません。与えられた自由の中で、どれだけ自律して厳しくできるか、これがラグビー部の4年間で得た大きな経験の一つです。その中心となってチームをまとめていた各代のキャプテンは本当に尊敬しています。特に今年度は新しく取り組むことも多く、難しいところもありましたが、徐々にチームが強くなっていることを実感できたことが本当に面白く、楽しかったです。

最後に、今年度も多くのOBの方のご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。私は今年度主務として活動していたため、OBの方々と接する機会も多く、多方面において京大ラグビー部がOBに支えられていることを実感致しました。今後は一OBとして現役の支援を行いたいと思います。4年間お世話になりました。

## ～中谷 萌（MG・大教大附平野）～



4年間、マネージャーを務めました、中谷萌です。中高6年間は陸上部の短距離選手として、練習に励んできた私にとって、ラグビーというチームスポーツで、しかもマネージャーという関わり方は、全てが初めてで新鮮でした。4年間は、楽しいことばかりではなく、大変な

こともたくさんありました。

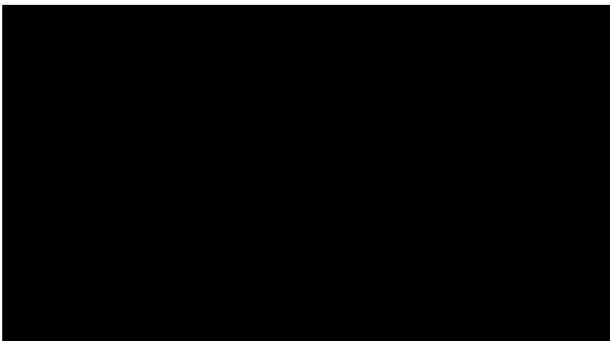
選手とスタッフの間で意見が食い違うこともよくありました。選手はスタッフに『やってくれて当たり前』、スタッフは選手に対して『やってあげているのに、感謝がない』という一方向の思いばかり溜まって、相手が見えなくなっていました。お互いに『尊敬する相手がいて、自分たちがいる』という気持ちが欠けていた事に気づきました。ただコミュニケーションを取るだけではなく、『相手を尊敬する心が消えない様にする！』これから社会人になってもこのことを大切にしようと思います。

入部当初は、マネージャーの先輩が2人で、私たちを入れて計6人でマネージャー業務を回していました。しかし、現在はマネージャーは全員で13人と、2倍以上に増え、出来る仕事の範囲も広くなりました。プレーヤーが常に良い環境でベストなパフォーマンスが出来るようにこれからも支えていって欲しいと思います。

来年からは、21年間暮らしてきた大阪を離れ、福岡に身を置くことになりますが、4年間で培った、コミュニケーション能力や、忍耐力（笑）を武器に、精一杯精進して参ります。（福岡に来た際は、ぜひ5チャンネルを…笑）

最後になりましたが、OBの皆様、日頃より大変なお力添えを賜りまして、心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## ◆ 連絡先等 ◆



## ◆ 定期戦試合結果 ◆

9月2日 @同志社大学京田辺 G)

●京大0－98 同志社大学

12月15日 (@宇治 G)

○京大A 19－12 九州大学A

●京大B 0－41 九州大学B

12月22日 (@東京大学駒場 G)

○京大A 22－10 東京大学A

○京大B 38－33 東京大学B

## ◆ リーグ戦試合結果 ◆

### 1次リーグ

9月8日 第一節 (@大阪国際大学 G)

○京大35－22 大阪国際大学

9月15日 第二節 (@宇治 G)

●京大19－53 大阪産業大学

10月6日 第三節 (@大阪国際大学 G)

●京大28－34 大阪教育大学

10月20日 第四節 (@大阪経済大学 G)

○京大48－35 大阪学院大学

10月27日 第五節 (@宇治 G)

●京大10－41 龍谷大学

### 2次リーグ

11月10日 第一節 (@龍谷大学南大日 G)

○京大42－35 神戸大学

11月17日 第二節 (@関西大学千里山 G)

△京大38－38 大阪国際大学

11月24日 第三節 (@追手門学院大学 G)

○京大36－33 大阪経済大学

## ◆ 編集部より ◆

クラブ便りに関するご意見等ございましたら、下記担当者まで遠慮なくお寄せください。また、こんなトピックを掲載してほしい等のご意見も大歓迎です。今後とも多くの会員の皆様にご協力いただくことになるとしますので、どうぞよろしくお願い致します。

総務委員 岡本大和 (H23)

総務委員 塩尻大也 (H28)

総務委員 石田充 (H30)

総務委員 古元泰地 (H31)

## ◆「京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド」について◆

### ～京都大学ラグビー部部長 清野純史～

OB 各位におかれましては日頃より様々な形で現役へのご支援をいただきありがとうございます。昨年10月にメールにて「(株)丸和運輸機関さんからの京都大学への寄附について」というご報告をさせていただきましたが、今後の計画も含めて改めてここにご報告させていただきます。

昨年3月に、(株)丸和運輸機関さんが関西で自社(関西丸和ロジスティクス)のラグビー部の強化を図る方策を検討している旨の話を溝口監督が受け、関西で自社グラウンドを持たない丸和運輸機関さんの練習グラウンドの必要性や京大との合同練習、延いては大学としての将来的な産学連携等も視野に入れ、宇治グラウンド総合整備のための寄附の話が持ち上がりました。

その後、丸和運輸機関・和佐見社長の宇治グラウンドの現地視察、丸和運輸機関執行部と川添理事を始めとする京都大学学生支援部および京大ラグビー部執行部との協議の末、8月の丸和運輸機関さんの取締役会の承認を経て最終的な寄附行為が決定しました。そして、10月2日に丸和運輸機関・和佐見社長と京都大学・山極総長との間で総額約4億円に上る寄附に関する覚書の調印が行われるに至りました。京都大学はこの寄附行為に対する謝意の証として、当該グラウンドを「京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールド」と名付けることとしております。

ご存知のように、宇治グラウンドは、我々は一番東側(山側)に位置する「部室」、そして「上のグラウンド」「下のグラウンド」と呼んでおりましたが、これらが一体となって「ラグビーフィールド」なる呼称となります(図参照)。

大学への寄附は通常現金の納付によるものが一般的ですが、整備規模や課外活動への影響、使用開始の時期等を総合的に勘案し、今回の整備による引き渡しは以下のように三期に分けた物納による形を取っております。

第一期 2020年(本年)2月竣工予定

- ラグビー場・上のグラウンド(東グラウンド) 施設設備整備等
- 運動場部室改修(トレーニングマシン一式含む)

第二期 2020年(本年)4月竣工予定

- 上のグラウンド(東グラウンド) 人工芝工事等

第三期 2021年(来年)7月竣工予定

- ラグビー場 天然芝工事等

現在、部室の改修および上のグラウンドの人工芝化の工事が着々と進んでいる状況です(写真参照)。

1897年創立および1922年創設の京都大学および京都大学ラグビー部の、それぞれ125周年と100周年記念(2022年)に合わせてのグラウンドを整備は、ラグビー部等が使用する課外活動施設に国際試合にも適合した品質をもつラグビーの天然芝や人工芝が敷設されることにより、学生が自主的、自立的に行う課外活動環境や地域社会活動への貢献が飛躍的に向上するものと思われます。引き続きOB各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、株式会社丸和運輸機関様の本学の活動に対する深いご理解と格段のご支援に重ねてお礼申し上げます。



ラグビーフィールド完成予想図



工事中の上のグラウンド(2019.12.26撮影)

## ◆フォトギャラリー◆

【大阪国際大学 リーグ戦】



京大の堅守が光り、開幕戦を勝利した



スクラムから持ち出してトライをとる鈴木



1回生も出場して、勝利に貢献してくれた

【東京大学 定期戦】



東大定期戦 MOM の安部、ゲームメイクが光った



次年度の活躍を期待させる1回生、渡邊のトライ



試合後、笑顔で握手する溝口監督と石田主将